

0324

大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

關參教第五三四號

秘

昭和十四年九月十九日 關東軍參謀長 飯村

第二次「ノモンハン」事件ニ於ケル教訓書類送付ノ件通牒

陸軍省副官 川原直一 謹

首題ノ件爲參考左記ノ通送付ス

左記

- 一、第六軍戰鬪教令（第一號）
- 一、同（第二號）
- 一、ソ軍夜襲ノ特徴及之カ對策
- 一、第二次「ノモンハン」事件ニ於ケル砲兵ニ關スル教訓
- 一、第二次「ノモンハン」事件ニ於ケル工兵ニ關スル教訓

十月六日

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣

昭和十四年九月二十七日 午前 大臣

陸軍省 14.10.31 編史

陸軍省 14.10.1 衛生課 受 20 號

陸軍省 14.10.4 事務

陸軍大臣 14.10.30

五部 五部 五部 五部 五部

陸軍

(大連高木納)

(陸海軍受第一七〇六號)

閱參教第五三四號

陸東軍參謀長

第二次ハモンハン事件ニ於ケル教訓書類配布目錄

書類名

部

配布先

第六軍戰闘教令

一

大臣、次官、副官、軍事衛生、  
一 部

同 (第二号)

一

銃砲、機、核、  
一 部

軍衣、被褥、待機及之方対策

一

戰備、資源、交通、  
一 部

第二次ハモンハン事件ニ於ケル砲兵ニ關スル教訓

一

兵務、兵備、  
一 部

同 兵ニ關スル教訓

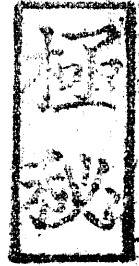
一

防衛、馬政、  
一 部

備考 右ハ各五部宛送付セルニ付為念

陸軍

0326



第六軍 戦闘命令 (第一號)

昭和十四年九月七日  
陸東軍司令部複寫

第六軍司令部

序 言

會戰ノ特性ニ鑑ミ官戰場一ノ中心ハ少附近ニ於テ指揮運用位ニ訓  
練上特ニ必要ナリト信スル被幕頃ヲ指示ス

昭和十四年八月三十一日

第六軍司令官 荻洲 中 將

第六軍 戰術 敕令

一、激滅戰ノ敢行ト縱長區分ノ重要性

各兵團ハ各當面ノ敵ニ對シ機ヲ察メテ激滅戰ヲ敢行スルヲ要ス  
激滅戰指導ノ要領ハ敵ノ中樞ニ突破部隊ヲ指向シテ之ヲ破潰シ先ツ  
兵ノ指揮組織ヲ混亂スルト共ニ又別ニ有力ナル一部ヲ以テ退路ヲ遮  
斷スルニ在リ此ノ際最後ノ目的貫徹ヲ保證スヘキ有力ナル第二線部  
隊ヲ控置スルノ著意亦絕對ニ必要ナリ

彼ノ包圍圈ヲ形成シ橫方向ニ於ケル協同連繫ノ保持ニ厲心シテ單ニ  
包圍圈ノ壓縮ヲ圖ルカ如キ方法ハ採ラサルトコロナリ

註 一、敵ハ攻防共ニ過廣ナル正面ニ分散スルヲ以テ其ノ正面ノ

追力ハ極メテ脆弱ナリ

二、敵ハ縱長ニ配備スルヲ以テ攻者ハ常ニ強大ナル第二線部

隊ヲ控置シ所謂軍戀リ式戰術法ニ依リ逐次ニ敵ヲ壓倒シ

戰果ヲ推進擴大スルヲ要ス

6A  
1

例へハ歩兵衛隊ニ在リテハ勢クモ一大隊ヲ常時控置シアルヲ要ス。戦例ヲ見ルニ結戦直後既ニ豫備隊ヲ缺ク例勢カラス。

よ敵ハ外翼ニ機械化部隊ヲ使用スルヲ以テ翼ノ判定困難ナリ之カ爲包圍、迂回等ニ用フル部隊ニハ敵機械化部隊ニ對シ強力ナル追力ヲ附與スルコト必要ナリ。

又十分分ノ一地圖ヲ使用スルト廣漠ナル戦場ノ地形トハ自然ニ戦闘正面過渡ノ辨ニ陷ルモノトス敵ニ注意ヲ要ス。歩兵旅團長以下ハ地圖ニ據リテ命スルコトナク現地ヲ目撃シテ戦闘ヲ指導スルヲ要ス。

### ニ 夜間機動並ニ夜襲ノ獎勵

戦車ト砲兵トハ敵戦力ノ中樞ナリ之カ爲我ハ夜間ノ利用ニヨリ之ヲ屈服セシムルヲ最モ有利トス之カ爲夜間機動並ニ夜襲ヲ極力獎勵スルト共ニ夜間ニ於テ得タル戦果ヲ晝間ニ確保シ之ヲ反覆シテ戦線ノ

推進ヲ企圖スルヲ有利トスル場合妙カラス

砲兵ハ拂曉後歩兵第一線前ヲ制壓シ得ル陣地ニ在ルコト絶對ニ必要ナリ又歩砲指揮官ノ密接ナル連絡ヲ確保スルニ遺憾ナキヲ期スハシ

註 一 晝間要點ニ對スル刀攻ハ損害極メテ大ナリ

二 敵戦車ハ夜間後退集結スルヲ例トシ其ノ戦備亦極メテ薄弱

ニシテ夜襲ノ好機ヲ捕捉シ得ルコト大ナリ

### 三 敵ノ抵抗地帯突破要領

一 敵ノ抵抗地帯ヲ突破スルニ方リテハ特ニ左ノ諸項ニ留意スルヲ要ス  
 一 敵配備ノ間隙、裏、死角等速カニ敵ノ弱點ヲ看破シ一舉ニ敵線ヲ突

破シ深ク侵入スルノ著意緊要ナリ

二 各部隊ハ縦長兵力ヲ特ニ大ニシ横廣ニ於ケル兵力ノ分散ヲ極度ニ戒

メ以テ縦深ノ敵陣地ノ突破刀ヲ保有スルコト特ニ必要ナリ

對戰車火器ノ部署ニ於テモ石ノ著意緊要ニシテ過早ノ損害ヲ避クル  
 事ニ留意スヘシ特ニ遠射砲ノ損耗ハ極メテ大ナルコトヲ覺悟シ之カ

兵力愛惜ニ努ムヘシ

④ 晝間敵陣地ヲ突破シテ陣内ニ突入シタル際ニハ我カ側背ニ對シ敵戰  
軍ノ現出ニ應シ得ル如ク速カニ一部ノ速射砲又ハ野山砲ヲ配置スル  
コト必要ナリ

⑤ 晝間攻撃ノ儘夜ニ入りタル場合ニ於テハ更ニ夜襲ヲ以テ其ノ戦果ヲ  
擴大スルコト極メテ必要ナリ晝間同一陣地ニ位置シ敵ノ集中火ヲ招  
カサル注意肝要ナリ

⑥ 敵地ニ際ク夜襲スル部隊ハ一時後方補給ノ斷絶スルコトヲ豫期シ必  
ス十分ナル彈藥積込、特ニ乾パン、水ヲ携行スルヲ要ス

⑦ 夜襲成功後ニ於テハ拂曉迄ニ必ス確保工事（最少限各箇掩護）ヲ構築シ  
拂曉後ニ於ケル敵火ノ損害ヲ減少スルト共ニ晝間ト同様陣地ノ正面  
特ニ翼側ニ歩砲ノ火網ヲ構成スルヲ要ス

又天明時迄ニ部隊ヲ完全ニ疎濶シアルコトニ注意スヘシ

註 蘇軍ノ防禦戒剛要領左ノ如シ



敵ハ廣大ナル正面ニ兵力ヲ分配配置ス又戦車ヲ「ト」ツ  
「」ニ代用シ其ノ間隙ヲ狙撃兵ヲ以テ連發シツツ戦線大  
ナル火網ヲ構成ス

2 我カ攻撃ニ對シテハ先ツ重砲ヲ以テ我カ攻撃準備間ニ於  
ケル著明目標ヲ射撃シ前進開始後ニ於テハ廢ト戦車ヲ以  
テ遊動シツツ側方ヨリ我前進ヲ妨害ス

3 敵ハ我カ歩兵ヲ戦線火網ニヨリ逐次ニ消耗スルコトヲ企  
圖ス

4 敵ハ打撃部隊トシテ戦車ヲ用ヒ我カ第一線突入ノ直後我  
カ側翼ニ向ヒ突進ス、我カ速射砲ノ死角ヲ察メテ突如現  
出スルコト多シ

4 敵對面攻撃ノ被推要領

敵ノ對面攻撃ヲ被推スルニハ左ノ各項ニ留意スルヲ要ス

1 防禦ハ攻撃準備ノ爲ノ待機間ヲ言ムニ於テハ際開ト工事ノ實施ト

6A  
8

ヲ絕對ニ必要トス、各面掩護ヲ利用スルトキハ敵ノ猛烈ナル集中射  
 撃、遠距離ニ地上掃射等ニ對シ殆ント損害ヲ免ルルコトヲ得  
 待ニ司令部、本部、集積所等ニ於テハ人馬車輛ヲ集セサル如ク敵  
 軍ノ要アリ、時間ノ餘裕ヲ得ハ馬匹、車輛ニモ掩護ヲ構築スルヲ要  
 ス

2 戦車及歩兵ニ對シテハ敵カ我カ火器ノ必中ヲ期シ得ル距離ニ近接ス  
 ル運射開始ヲ隱忍スルヲ要ス

敵ハ中距離ニ於テ戦車ヲ出トシテ我カ速射砲ヲ暴露セシメ被メ彈傷  
 セル重砲又ハ他ノ戦車ニ依リ之カ制壓破壊ヲ企圖スルコト多シ  
 因追攻撃ハ依然其ノ價值大ナリ但シ敵戦車カ緒戦ノ失敗ニ感リテ火  
 焰瓶ノ効果ヲ滅殺スル手段ニ要部ニ金網ヲ張り在ルカ如キ一ヲ斷シ  
 アルヲ以テ點火シタル數箇ヲ連續投擲シ又地雷、爆藥ヲ併用スルヲ  
 可トス

但シ晝間ニ於テハ敵ハ隣接戦車相互ノ側防ニヨリ我カ肉迫行動ヲ防

善スルヲ以テ平直開闢地ニ於ケル肉薄攻撃班ノ登用使用ハ愛惜スル  
可トス

註 「ソ」車ノ登用攻撃要領左ノ如シ

ノ敵ハ其ノ優勢ナル火炮ヲ以テ登用我方陣地ニ對シ受附固無  
射擊ヲ加ヘタル後賊軍ヲ誘出セシメ中距離ヨリ戰車ヲ以テ  
包圍的ニ射擊シ其ノ火力ノ衰ヘタル時機ヲ利用シテ逐次近迫  
シ祖進歩兵之ヲ誘伴ス

敵ノ突進ハ戰車ノ防護下ニ手榴彈ヲ投擲シ多クノ場合突入セ  
ス時トシテ火炮直射ニ伴ヒ突入スルコトアリ此際固ニ於テ  
ハ歩兵ハ二、三百本ノ隊進ニテ我ニ近迫スルコトヲ防ナリ

又敵戰車ハ本任職ノ初級ニ於テハ歩兵ト分限シテ我ニ突進シ來  
ル容易ニ我方陣地ニ於テハ二、三千米ノ距離ニ我ニ射程  
メタル方短ク開闢地ニ於テハ二、三千米ノ距離ニ我ニ射程  
外ニ於テ一ヨリ度ニ其ノ位置ヲ離脱シツツ包圍的ニ進軍スル

へ我カ砲火ニ對シテハ巧ニ分敵退避シ戰車火器ヲ有セサル  
 我カ側背ニ迂回シ又廣ク我カ後方補給路ヲ遮斷致亂スル爲進  
 進ス但シ我ニ他兵又ハ側射砲ヲ有セサルトキハ大膽ニ我カ陣  
 地ニ突進スルコトアリ

④敵飛行機ハ他兵陣地、司令部車輛部隊等ヲ求メテ急襲及地上  
 掃射ヲ加フ地上掃射ハ砲位望ニ於テ行フヲ常ニスルモ各個砲  
 隊等ヲ利用スルトキハ損害殆ント無シ

### ⑤敵夜間攻撃ノ破砕要領

敵ノ夜間攻撃ヲ破砕スルニハ左ノ諸項ニ留意スルヲ要ス

①夜間小隊ノ選抜セル部隊ヲ以テ戰車ニ肉迫夜襲スルトキハ傳功ヲ  
 著スルコトアリ

②敵戰車歩兵ノ攻撃ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ近接ヲ慮忍シテ待テ  
 然レ迨攻撃ニ轉スルヲ可トス

③翼側ニ對シ戰車火器ヲ縱長ニ配置スルコト必要ナリ

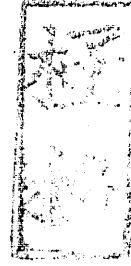
註

蘇軍ノ夜間攻ニ應領左ノ如シ

ノ敵ハ夜間殆ント攻撃ヲ實行セス戦車等ハ後方ニ集結シ防禦スルモノノ如ク稀ニ單車又ハ戦輛ヲ以テ戦線又ハ我カ陣内ニ現出シ擾亂ヲ企圖スルコトアリ

ニ我カ兵方劣勢ナルカ又ハ整間ノ損害大ナル時ハ戦車ヲ伴フ歩兵ニヨリ攻退シ來ルコト多シ其ノ要領ハ概不整間ニ同シ

0337



第六軍 戦闘命令 (第二號)

昭和十四年九月六日  
第六軍司令部 複寫

第六軍司令部

序 言

本教令ハ次期攻勢作戦ノ爲小部隊ノ指撥更ニ各部隊間動作ニ必要ナル事項ヲ蒐録ス

各部隊ハ速カニ之カ普及徹底ヲ圖リ以テ無益ノ損害ヲ防クト共ニ最大ノ戦果ヲ發揮センコトヲ期スヘシ

昭和十四年九月六日

第六軍司令官 荻洲 中 將

## 第一對戰車戰術法

一、戰車ヨリスル近距離ノ視察ハ頗ル困難ニシテ殊ニ夜間ハ益ク盲目ナリ之カ爲肉迫攻撃ハ最モ有效ナル戰車攻撃手段ナリ同時ニ直接戰車攻撃ノ任務ヲ有セサル部隊ハ待ンテ戰車ヲ相手ニスルヲ避クヘシ特ニ夜間ニ於テ此ノ注意ヲ必要トス

二、肉迫攻撃途ニ於テ沈着シ隱忍シテ敵戰車ノ近迫ヲ待チ好機ニ捉シテ攻撃ヲ敢行スルヲ要ス過早ニ飛ヒ出シ又ハ戰車ヲ追ヒ掛ケ廻スカ加キハ不覺ヲ招ク基ナリ

三、肉迫攻撃ノ爲ニハ手榴彈、火焰壕、戰車地雷、爆藥、吸着爆藥ヲ使用スルモノトス

ノ手榴彈ハ少クモ二乃至三箇ヲ結束シテ使用スヘシ手榴彈ノ攻撃奏效シ



タルトキハ敵ノ操縦者ハ天蓋ヲ開ケテ逃ケ出スヲ以テ機ヲ失セス射撃ヲ準備シアルヲ要ス

2 火焰機ハ行動中ノ「ガソリン」戦車ニ對シテハ其ノ儘投擲シテ有效ナリ。重油戦車又ハ金網ヲ以テ防護ノ装置ヲ爲シアル戦車並ニ停止シア  
ル戦車等ニハ火焰機ニ點火シタル後投擲セサレハ效果ナキニ注意スベ  
シ

3 戦車地雷ハ重戦車ニ對シテハ少クモ二箇ヲ結束シテ用ヒ尙肉迫攻撃ヲ併用スルヲ可トス

4 爆薬ハ砲塔ノ附カ根ニ装着スルヲ可トス

5 敵ハ掘座シタル戦車ニ狙撃兵ヲ潜入セシムルコトアリ油断セサルコト必  
要ナリ

其新戰車火器ハ敵砲兵及戰車ノ目標ナリ

敵戰車ハ我カ速射砲ヲ發見スル時ハ停止シテ破壞射撃ヲ行ヒ又固ノ戰車ヲ使ヒ他ノ戰車ヲ以テ射撃ス之カ新戰車火器ハ効メテ其ノ使用ヲ變情シ且砲形及工事ニ依リ速射ノ後部ヲ避ケルノ着意極メテ素速ナリ

對戰車火器ヲ永ク同位置ニ於テ射撃ヲ繼續セシムルハ不可ナリ之カ無誤備彈地ヲ準備シ曩ニ彈地ヲ移テ行フヲ要ス

六、速射砲ニシテ防盾ヲ附シテ朝靄地ヲ暴露シテ前進スルカ如キハ藥物ナリ

七、速射砲ハ隱忍シテ敵戰車ノ近接ヲ待ツテ不意ニ射撃シ直チニ彈地ヲ運搬

スルヲ可トシ補給備ハ之ニ反シ運搬彈地ニアリテ射撃スルヲ有利トス

八、對戰車火器ノ損害ハ相當大ナリ故ニ可成之ヲ延長ニ斷續シ第一線ノ補充

ニ供アルノ注意必要ナリ

九夜襲部隊カ對戰車火器ヲ碎テハ一考ヲ要ス蓋シ却ツテ敵戰車ニ破壞セラルル虞多キヲ以テナリ夜襲ニ於テハ肉迫攻撃ヲ最良ノ手段トス

六敵戰車ノ攻撃ヲ受ケタル場合肉迫攻撃ニ任セサル者ハ弊ニ沈着シ凹地又ハ壕等ヲ利用シテ伏臥スルヲ可トス

火焰戰車ハ通常五〇米附近ヨリ火焰ヲ放射シ加射距離ハ約三〇米ニシ其ノ放射角ハ極メテ少ニシテ壕内ニアル者ハ殆ント其ノ被害ナシ槍聲トシテ逃避セントシ高姿等ヲ呈スルハ禁物ナリ

### 第二對狙撃動作

六敵ハ廣闊區ニ配置シタル火點ノ間隙内ニ狙撃兵ヲ配置ス

狙撃兵ハ展望射擊ニ便ナル位置ニ潜伏シ眼鏡付狙撃銃ヲ使用ス狙撃距離ハ七、八〇〇米ニシテ命中精度稍當良好ナリ

三 狙撃兵ノ發見ハ困難ナルモ地形ヲ判斷セハ概ネ推知スルコトヲ得ルヲ以

テ重輕機又ハ發方向ヨリ小銃ノ集中射撃ヲ以テ撲滅スルヲ可トス

四 敵兵器及監視壕ニハ遠カニ遮斷ヲ構築スルヲ要ス

五 輕便ニ履望鏡ニ進出シテ敵情ヲ觀察スルコトヲ嚴ニ避クルヲ要ス之カ爲

ニ先ニ鐵帽ヲ被セテ突キ出シ敵ノ注意ヲ鐵帽ニ惹キツケ他ノ箇所ヨリ

觀察スルヲ有利トスルコトアリ

六 敵ノ狙撃ヲ準備セル地區ニ於テ敵情ヲ觀察セントスル場合ニハ永ク一地

點ニ停止スルコトナク屢々其ノ位置ヲ變換スルヲ可トス

七 狙撃地帯ヲ通過セントスル練習者ハ先ズ狙撃地帯ノ地形ト狙撃方向トヲ

仔細ニ觀察シ觀察ヲ定メタル後一學ニ通過スルヲ可トス

### 第三對砲兵隊團

有砲彈カ身邊近クニ落着シタル時ハ直チニ伏臥スルカ又ハ散兵壕ニ危害ヲ  
避クルヲ可トス

以上ノ注意ヲ嚴守スレハ砲彈ニ依ル被害ハ極メテ尠小ナリ

大砲發射散歩兵ハ決シテ突入シ來ラズ又發射車火器ノ存在スル限リ戰車ハ  
通常近迫突進スルコトナシ

大砲軍ハ戰線標示ノ爲赤旗ヲ植立シ夜間ハ赤燈ヲ用フルヲ例トス  
三線軍ノ中口徑以上ノ火砲ハ移動スルコト少ク小口徑火砲ハ屢々其ノ陣地  
ヲ變換ス又換砲火、換砲煙ヲ巧ミニ利用シテ其ノ陣地ノ秘匿ニ勉メツツ  
アリ然レ共第一線歩兵ノ位置ヨリ尙到ニ監視スルトキハ之ヲ察知スルコ  
ト容易ナリ

三線軍ノ高地ノ稜線ニ對シテハ敵ハ狙撃ヲ準備スル外「ライエツ」ノ掃射砲兵

砲火ヲ準備スルヲ怠トス故ニ指揮官、歩兵重火器等ノ陣地占領ニ  
方リテハ待ニ警戒スルヲ要ス

三、蘇軍ハ夜間戦闘ニ於テ屢々曳光彈射撃ヲ行ヒ砲兵ハ之ニ連繫シテ其ノ  
前方三、四百米附近ヲ射撃シ後方部隊ノ遮断ヲ企圖スルコト多キモ一  
般ニ亂射ニ過キサルモノトス

四、敵砲兵ノ射撃ハ前後ニ轉移スルコトアルモ一般ニ方向上ニ於テ轉移ス  
ルコト多キカ如ク同一諸元射撃ヲ反覆ス就中後方地帯ニ對スル敵ノ砲  
撃ハ殆ト一定スルヲ以テ容易ニ其ノ危害ヲ避クルコトヲ得

第四 夜間戦闘

一、夜間戦闘ハ夜間戦闘必勝ノ要件ナリ之カ爲裝填ヲ嚴禁シ且突進ニハ快  
速ヲ要スルコトヲ禁ス

二十三 夜襲ニ方リ敵ノ射撃ヲ受ケタルトキ停止スルコトハ禁物ナリ蓋シ敵カ

沈黙ヲ復歸セサル隙間ニ突進ヲ敢行スルヲ有利トスルヲ以テナリ

二十四 火點攻撃隊ハ半小隊乃至一小隊ニテ充分ナリ主力ハ適宜後方ニ在リテ

火點攻撃隊ヲ推進スル如クニルヲ可トス

二十五 縱隊陣地ヲ夜襲スルニ方リテハ掃蕩隊ヲ前屈シ右側陣地内ニ退却ヲ行

進スルヲ要ス

二十六 夜襲成功セハ信號彈等ヲ用ヒ之ヲ指揮官ニ報告スルト共ニ夜襲部隊ヲ

退クルヲ要ス

二十七 敵ノ夜間攻撃ハ陣地前五〇―六〇米附近迄近接シ峽壁ヲ攀ケ手榴彈ヲ

投擲ス然レ共殆ト陣地ニ突入スルコトナシ故ニ守兵ハ靜カニ待機シ敵

ノ陣地ニ突入スルヲ待ツテ之ヲ刺殺スルカ或ハ敵ノ側方ニ迂回シテ之

ヲ攻撃スヘシ敵ノ正面ニ對シ過早ニ出撃スルコトハ禁物ナリ

二十 夜間「クトウ」ハ誰カ」又ハ「クトウタム」ハ其處ニ居ルノハ誰カ」

ト敵ノ誰何ヲ受ケタル場合ニハ「ダヴァーリシチ」ハ友達ト答ヘ爾  
進ヲ續ケ逃避シ又ハ停止スルコトナキヲ有利トスルコトアリ

#### 第五對手榴彈戰術

二十一 敵ハ攻防共ニ盛ンニ手榴彈ヲ使用ス其ノ投擲距離ハ四〇米内外ナリ

二十二 永ク手榴彈ノ投擲距離内ニ止マルハ不可ナリ機ヲ窺ヒ一舉ニ通過スヘ  
シ

二十三 近ク接近其ノ他物ヲ中間ニ介シテ戦フ場合ニハ擲彈筒ヲ用ヒ側方又  
ハ後方ニ迂回シテ攻撃スルヲ可トス

二十四 手榴彈ノ攻撃ヲ受クル場合ニハ伏臥シテ其ノ被害ヲ避クルヲ可トスル



モ身邊近クニ落達シ避ケル邊ナキトキハ手早ク投ケ返スヲ有利トス  
蘇軍ノ手榴彈ハ投擲後約四秒ニテ發火ス

#### 第六對飛行機動作

二十六 軍隊ハ敵ノ爆撃竝ニ對地攻撃ノ危害ヲ避クル爲徹底的ニ疎開スルト共  
ニ狀況之ヲ許サハ必ラス人馬ハ勿論車輛ノ爲ニモ速カニ掩壕ヲ構築ス  
ルヲ要ス右ノ處置ヲ講スルトキハ爆撃又ハ對地攻撃ニ依ル實質的損害  
ハ極メテ輕小ナリ

二十七 敵ノ對地攻撃ニ對シテハ射撃ヲ以テ警戒ヲ圖ルヘシ然レ共能ク敵飛行  
機ノ高度ヲ考ヘ苟クモ效方ナキ濫射ニ陥ラサルノ注意必要ナリ

二十八 敵ノ爆撃ヲ受ケタル時ハ直チニ伏臥シ且眼竝ニ耳ヲ掩フヘシ

6780



第二次ノモンハン事件参考資料

ソ軍夜襲ノ特徴及之カ對策

第二十三師團司令部

昭和十四年九月七日  
滿東軍司令部複寫

本資料ハ今次事件ニ於テ各部隊ノ屢々遭遇セシソ軍ノ夜襲ニ備スル責  
重ナル體驗事項ヲ蒐録セルモノニシテ尙研究ノ要アルモノト認ムルモ  
取敢ス印刷配布スルコトトセリ

目次

- 其一、 山 縣 部 隊
- 其二、 森 田 部 隊
- 其三、 酒 井 部 隊
- 其四、 須 見 部 隊
- 其五、 長 谷 部 隊

其ノ一

山縣 部 隊

特

徴

對

策

(一) 要旨 敵ノ夜襲ハ砲兵。戰車。手榴彈等ヲ多數使用スル火力戰ニシテ  
 殆ト晝間攻撃ト差異ナク我カ對策亦晝間ト大差ナキモ以下細部  
 ニツキ若干事項ヲ述フ

一。敵夜襲ハ晝間攻撃ト異ルコトナ  
 シ即チ砲兵ヲ以テ我カ第一線砲  
 兵陣地等ヲ射撃シ其ノ步兵ハ戰  
 車ヲ伴ヒ攻撃前進シ來リ陣前至  
 近距離ニ迫ルヤ多數ノ手榴彈ヲ  
 投擲スルヲ常トス  
 而シテ火力ト突撃トノ運籌待ニ  
 砲彈ニ屬接スル突入ハ甚々未熟  
 ナリ

一。敵攻撃ノ初動ニ對シ其ノ砲兵ヲ  
 激減若クハ崩壊シ且戰車ヲ破壞  
 スルハ敵ノ攻撃意志ヲ挫折セシ  
 ムルヲメ重要缺クヘカヲサル要  
 件ナリ而シテ步兵ハ敵ノ砲擊間  
 所要ノ隘路兵ノミヲ出シテ隊内  
 ニ待機シ以テ損害ヲ避ケ敵至近  
 距離ハ但シ手榴彈ノ投擲距離外  
 ナルヲ要ス一ニ近接スルヤ不意  
 急襲的ニ猛火ヲ集中シ其ノ強壯  
 機能スルニ乘シ自兵ヲ以テ之ヲ  
 壓滅スルヲ要ス一但シ出陣ニ際

夜一

二 信號彈ヲ多數使用シ且行動喧嘩

ナリ

三 配備ノ間隙ニ突ハスルノ著意ニ  
之シ

(二) 新言

之ヲ要スルニ敵ノ夜襲戦法ハ我カ奇襲ヲ本旨トスル戦法ト異  
ナリ火力戦ニ終始シ何等夜襲ノ特性ヲ利用スルコトナク露モ  
懼ルフニ足ラス我ハ敵戦法ノ缺陷ニ乗シ逸ヲ以テ勞ヲ待チ敵  
ニ多大ノ損害ヲ與ヘ得ヘク寧ロ歡迎スヘキモノナリトス

シテハ敵後方部隊ヲニ支援火器  
ノ状態ニ注意シ且敵ノ側背ニ突  
入スルノ著意ヲ肝要トス  
尙偽陣地兵ヲ設ケ或ハ晝夜ノ配  
備ヲ變更シ以テ敵火時ニ手覆  
ヲ誘致スル等偽陣ニ勉ムルヲ要  
ス

三 監視警戒上有利ニ適用セラル信  
號彈ハ統計的ニ考察セハ敵企圖  
判断ノ一助タリ得ルコトアルヘシ  
三 夜間ノ間隙閉鎖ハ少兵力ヲ以テ  
足リ得ヘシ

其ノ二

森田（徹）部隊

一、ソ軍夜襲ノ特徴ト之カ對策

ソ軍ノ夜襲ハ奇襲ニ非スシテ一般ニ強襲内アリ即チ必ス火力ヲ伴ヒ近  
 接シ喫撃（ウツ）ヲ受ケテ三層彈ヲ投スル距離迄前進シ來リ熾ンニ手  
 榴彈ヲ投シ或ハ射撃スルモ突入シ來ラス  
 但シ手榴彈ヲ投スルモ何等抵抗ナキ場合ハ突入シ來ルヘシ  
 然レトモ小部隊等ニ勇敢ナル狙撃兵ハ往々匍匐シテ隱密ニ我カ陣地ニ  
 近接シ來リ不意ニ手榴彈ヲ投スルコトアリ

待機左ノ如シ

ノ徹 候

敵カ夜襲シ來ル場合ハ一般ニ敵線活氣ヲ呈シ特ニ戦車及車輛ノ往來  
 頻繁ニシテ各種火器就中機關銃ノ射撃ヲ熾ニ行フ  
 又赤信號彈ヲ發シ赤火光輝等ヲ射撃ス青信號彈ヲ發スル場合ハ退却  
 カ或ハ軍ナル連絡ノ場合多シ故ニ赤信號彈ノ場合ハ注意スルヲ要ス

## 2 險形及前進要領

(1) 險形ハ敵兵ノ間隙ヲ短縮シタルカ如キナルモ近接スルニ從ヒ不現ニシテ殆トバツバツナリ  
指揮官ハ率先先頭ニ非ス

### (2) 前進要領

戰車及機關銃、狙撃兵等ヲ逐次前進セシメ其ノ藏ナル射撃ノ掩護ニ依リ自身或ハ匍匐シテ前進ス而シテ一般ニ靜肅ナラス器具其ノ他ノ音響ヲ發シ或ハ工事ヲナスモノ等アリ

陣前一〇〇及至二〇〇米附近ニ近接セハ匍匐ノ體「ウラ」「ヲ」ヲ發シ敵情ヲ伺ヒ敵射撃ノ間斷ヲ利用シテ前進ス故ニ「ウヅ」「ヲ」ヲ聞キタル時ニテモ必スシモ突入シ來ラス往々ニシテ此ノ種喚聲ニ依リ既ニ敵突入シ來ルモノト考へ錯誤ヲ來スコトアリ注意ヲ要ス又時トシテ煙幕ヲ利用シ或ハ照明彈ヲ用ヒ（飛行機ニヨリ）敵情ヲ偵察シ夜襲シ來ルコトアリ

(9) 火力ト迎撃部隊トノ關係

火力ハ夜襲部隊自ラ行ヒ或ハ同一戰場ニ於テ協力シツツ逐次前進ス

時トシテ火力部隊 反對方向ヨリ前進シ來ルコトアリ故ニ其ノ

前進ハ屈身及匍匐ヲ爲シ迅速ナラス

又警戒ヨリ夜間ニ亘リ猛烈ナル砲撃ニ依リ其ノ掩護ノ下ニ夜襲シ

來ルコトアリ

(10) 前半夜ニ日没後二二時間ノ間ニ行フコト多ク後半夜ハ夜襲シ來

ルコト殆トナシ

一般ニ「ソ」軍ハ後半夜ヲ依リ特ニ拂圍ハ最モ警戒ヲ怠レリ

ニソ軍ノ夜襲ニ對スル對策ニ就テ

ソ軍ノ夜襲ハ全ク悉ルルニ足ラヌハ夫以テ千夫ニ當ルヲ得ヘシ

(1) 夜間ニ雖モ相當射擊圍ニ陣地ヲ占領シ射撃設備就中重火器、擲彈筒

射撃ノ設備ヲ充分爲シ置クコト重要ナリ

3



擲彈筒ハ身火手榴彈ノ射撃ヲ最モ可トス

(2) 陣地前ノ警戒ヲ嚴ニシ其ノ距離ハ暗夜ト雖モ敵ノ手榴彈投擲距離外ニ出シ成ルヘク低地ニ地面平ノ處ヲ設備シ射撃設備特ニ手榴彈ノ準備ヲ爲シ置クニト肝要ナリ

相當ノ敵ヲ此ノ種警戒兵ノミニテ擊退セシムルコトアリ

(3) 如何ナル大軍ニ包圍セラルトモ其ノ陣地ヲ固守セサルヘカラス兵力少數ナルカ故ニ陣地ヲ拋棄スルカ如キハ大禁物ナリ一兵トナルモ猛烈ナル射撃ヲナセハ必ス敵ヲ擊退シ得ヘシ

時トシテ一部ヲ陣地外ニ出シ射撃ヲナシ或ハ喚聲ヲ發シ突入ノ氣勢ヲ示ス等僞爆的行動ヲ成功スルコト少シトセス

(4) 「ウツ」ノ喚聲ヲ聞キシ時必スシモ突入シ來ラサルヲ以テ其ノ時機ニ亂射スヘカラス寧ロ其ノ前後ニ注意シテ效果的射撃ヲナスヲ要ス之敵ハ陣地前ニ於テ伏セノ體「ウツ」ヲ發スルコト往々アルヲ以テナリ

(5) 障礙物ハ簡單ナルモノニテモ極メテ效果大ニシテ之カ設備ハ地形ノ

關係ニ依ルモ手榴彈投擲距離外ニ構築スルヲ要ス

而シテ小部隊ハ四圍ニ對シテ設クルコト極メテ必要ナリ

之ヲ要スルニ夜間ノ警戒時ニ障地前ノ警戒ヲ嚴ニシ敵ノ企圖ヲ速カニ察知シ火力準備ヲ甚ハ敵ヲ十分近接セシメ置キ之ニ猛射ヲ浴ビセハ必ず撃退スルコトヲ得ヘシ

之カ爲彈藥特ニ重火器、手榴彈等ヲ多數準備シ置クコト肝要ナリ

其ノ三

一、敵夜襲ノ傳發

酒 井 部 繪

要旨 諸種ノ關係上一定ノ形式ヲ記述シ得サルモ、普遍的特徴ト認ムルモノ左ノ如シ

ノ夜襲ノ方式

火器ノ威力ヲ利用スル強襲ナリ即チ砲兵ヲ以テ我方第一線及後方ノ連絡射撃ヲ實施シタル(間)後敵歩兵ハ我方第一線ニ近接MEIヲ以テ射撃掩護ノ下ニ更ニ近迫シ手榴彈ヲ投擲スルヲ例トス。突入シ來ルコト殆トナシ

ニ夜襲準備及夜襲ノ實施時刻及發起點

敵ハ我方第一線ニ猛烈ナル集中砲撃ノ下ニ逐次兵方ヲ陣地前三四百米ノ距離(死角)ニ集結シ夜襲準備ヲ整フルヲ例トス。其ノ時敵ノ準備ノ要領ハ判明セサルモ火器ノ利用ニ關スル協定若クハ隊形ノ整理ヲナスカ知シ此ノ附近ニ敵ヲ誘引シ準備セシコト多シ。襲撃ノ時敵ハ晝夜一定セス夜襲發起地點ハ即チ此ノ地ニシテ時刻一定セザル

モ數次ノ經驗ニ徴スルニ二十三時頃最モ多ク若クハ二―三時頃亦屢  
 1 次襲セリ

### 3 兵力

大部隊ヲ某一陣地ニ集中使用スルカ如キコトナク各方面ニ平等ニ分  
 散使用スル傾向アリ又各方面ノ夜襲部隊ノ運搬極メニ迅速ニ及  
 名宛小起伏地等ヲ巧ニ利用シ陣前至近ノ距離ニ潛入シ來リ手榴彈ヲ  
 投擲スルハ妙ヲ得タリ又百名位ノ兵前送シ來ルモ至近ノ距離ニ近接  
 スルハ十數名ニ過キス他ハ後方ニ待機ス

### 4 隊形

接敵隊形ハ我カ軍ノ如ク密集整然タルモノニ非スシテ不規ニ疎開ス  
 ルモ概シテ菱形隊形ナルカ如シ即チ火器ノ腕刀ヲ利用スルヲ以テナ  
 リ勇敢ナル兵先頭ニ立テ他ハ之ニ準フヲ常トス

### 5 夜襲實施要領

敵ハ砲臺ヲ以テ第一線ヲ制壓間夜襲部隊ヲ我カ陣地前三四百米據點

八五

迄前進セシメ夜襲ノ旨ヲ告ヘ、及信筒彈ヲ以テ射程延伸ヲ要スル  
 シ砲兵射程ヲ延伸スルヤ敵歩兵ハ通常戰車ヲ伴ヒ菱形状形ヲ以テ近  
 接約百米附近ニ<sup>MG</sup><sub>MG</sub>ヲ並ヘテ側方ヨリスル我カ出撃ニ備ヘシムルト  
 共ニ我カ陣地ニ封スル我カ火制ヲ準備シ徒歩兵カ更ニ五十米近ク迄  
 務メテ真側ヨリ前進シ來リ突撃發起ニ方リテハ指揮官ハ後方ヨリ號  
 令ヲカケテ兵ハ「ワラッ」ノ掛聲ト共ニ速歩ヨリ稍々早キ速度若ク  
 ハ匍匐ニテ前進シテ手榴彈ヲ投擲シテ我ニ殺到スルモ我カ火器及手  
 榴彈等ニヨリ還退セラルルヲ常トス時ニ敵名突入セシコトアルモ自  
 兵ヲ使用セス管之ヲ殺セリ敵ハ側背ヨリスル突撃ノ著意アルモ實施  
 ハ不徹底ニシテ靜肅ナラス

#### 6. 夜襲後動作

敵ハ夜襲失敗ニ歸シ我カ手榴彈ヲ獲ルモ有效且相當數ニアラサレハ  
 退却セザルコト多シ五〇—一〇〇米前方ニテ凹地ヲ利用シ暫時スル  
 ヲ通常トス然レ共〇〇榴彈ヲ發射集中セハ退却スルコト多シ退却ニ方

2  
6

リテハMG LGヲ以テ收容射撃ヲ實施シツツ重砲位置へ後退乗車引揚ヲナス第二回第三回ト實施ヲ反覆スルコトアリ時機ハ二―三時頃最も多シ

## ニ對 策

要旨 必勝ノ信念旺盛ナル攻堅精神等形而上ノ要素ハ敵及我雙方ノ最大要素タルモ左ニ具體的事項ヲ記ス一般的ニ直チニ通用スルモノニ非サルモ本狀況地形ニ應ジテ之カ考究ヲナセリ

### ハ企圖ノ察知

(イ) 敵ハ夜襲セントセハ車輛ニテ距離ヲ第一線近ク(七、八〇〇米)輸送スルヲ以テ夜襲スルニ非スヤト豫察セラル故ニ之カ監視ノ繼續肝要ナリ

(ロ) 十九時、二十時頃ヨリスル砲聲ハ夜襲ノ企圖ヲ知り得ルヲ以テ準備スヘシ

(ハ) 監視ノ至嚴搜索ノ勵行並ニ潛伏斥候ヲ派シテ速カニ敵企圖ヲ知ル

## ヲ要ス

## 2. 企圖ノ秘匿

(1) 地形之ヲ許セハ陣地ヲ晝夜一部變更（特ニ一分隊ヲ前方ニ出ス等ハ有利ナリ）

(2) 有效射以外ノ射擊ハ努メテ之ヲ戒ム

(3) 射照明ニ對スル陣地漏成上ノ著意

## 3. 企圖ノ破權

(1) 射砲兵或ハ砲兵重火器ヲ以テスル第一線部隊ノ射擊

(2) 要點ニ對スル集中射

(3) 夜襲準備位置ニ對スル○其ノ他火力ヲ以テスル擾亂MGヲ以テスル射擊（接敵前進間）

(4) 陣地物ノ設置簡單ナルモノニモ效果アリ

## 4. 射擊動作

(1) 支援火器ノ撲滅

(四) MG MG ヲ以テ敵手榴彈投擲前ニ於ケル集中射特ニ斜射側射ヲ必ス實施スヘシ

(五) 敵ノ我カ MG MG 火ニ依リテ全線ニ膠着セル時ハ手榴彈ヲ投擲ス

(六) 榴彈ノ集中射擊

(七) 一部ヲ以テ側背ヨリ反撃セハ效果著大(夜間射擊設備ノ周密)

(八) 敵壁ヲ揚ケ敵ヲシテ過早ニ手榴彈ヲ使用セシメタル後突撃スルヲ可トスルコトアリ

(九) 損害減少ノタメ集中射擊開始マテ絶對靜肅ナルヲ要ス

(十) 輕學ニ出擊スルハ敵手榴彈ニヨル損害大ナルヲ肝銘スヘシ

#### 五 損害防止策

(一) 手榴彈ニヨル損害防止ノタメニハ分散配置ヲナスカ或ハ待避壕ヲ作りテ一時之ヲ避クル如クセハ可ナリ又火ヲ曳キテ來ルヲ以テ目

視シ避ケ得ルコト多シ

(二) 障礙物ト相俟チテ敵ヲ遠ク支フルヲ可トス



(ハ) MG 等ノ標定設備ノ關係上又ハ射手居ル關係ニヨリ自衛ノ裝置ハ掩蔽所等ヲ作ルヲ要ス

三 結 言

之ヲ要スルニ敵ハ最後ノ曰兵力缺乏セルヲ以テ火器ヲ以テスル奇襲間ハ勢メテ損害ノ防止ニ留意スルト共ニ常ニ積極的自主的動作ニヨリ敵ヲ致シ破壊シテ之カ擊滅ニ努ムルヲ要ス

特

徴

對

策

一、一般ニ物質偏重ノ性アリ特ニ砲兵戰車砲火ヲ重  
用シ自兵ヲ以テ勇猛果敢ナル突撃ヲ實施スルノ  
氣力ナシ況ンヤ砲兵火ヲ伴ハサル逆襲ハ全然ナ  
シ得サルモノト愚考ス即チ陣地前ニ三千米突撃  
近ニ據メ搜索據點ヲ占領シ綿密ナル搜索ヲ遂ゲ  
タル後逆襲ナル砲兵ノ威力ノ下ニ戰車ヲ伴ヒ戰  
車射撃ニヨリ逐次近接シ陣前百六百米突撃點ニ  
於テ各種火器ヲ發揚シ後退スルヲ通常トス然レ  
トモ時トシテ勇敢ナル陣前二百米突内外ニ近接  
シ擲彈銃並ニ手榴彈ノ射撃ヲ行ヒ退却シ肉迫ス  
ルコトナシ

一、物質偏重ノ特性ヲ利用シ我方ニテニ事前ニ充分  
火ヲ準備シ其ノ發動ニ於テ徹底的ニ叩ケハ  
逆襲ノ企圖ヲ充分ニ露破スルヲ得ヘシ又我方砲  
兵充分ナラサル場合ニ於テハ奇襲的ニ敵ノ側背  
ニ進出シ敵ノ機先ヲ制スルヲ最モ有利トス

- (1) 先ニ砲兵戰車等ニテ攻撃シ我方慮スル時ヲ見  
テ逐次近接シ包圍陣ヲ形成ス
- (2) 突撃ノ進行ニ擲彈銃ニテ手榴彈ノミ投擲ス  
此ノ際戰車ノ協力ヲ伴フヲ通常トス
- (3) 陣前突撃時ニ逆襲スルコト多ク全ク夜間ニ實  
施スルコト稀ナリ

- (1) 敵ノ行動ニ先ンシテ其ノ搜索點ヲ破壞シ我方  
軍ノ各種火力ヲ充分ニ發揚ス
- (2) 敵ヲシテ我方兵力火力等ヲ過大感スル如ク配  
備其ノ他種々工夫ヲ要ス
- (3) 逆襲ノ徵候ヲ發見セハ未然ニ或ハ其ノ發動ヲ  
露破シ砲撃等ニテ破壞スルヲ要ス(小部隊ノ  
奇襲等ニ有效ナリ)

- (4) 夜間ノ逆襲ノ際モ砲撃ヲ實施ス
- (5) 突撃力ハ極メテ薄弱ナリ手榴彈亂投ノ嫌アリ
- (6) 夜襲セントスル部隊方向ニ濃厚煙烈ナル射撃  
ヲ行フ

- (4) 敵近接時一若クハ二回砲撃ヲ擧ゲ敵ヲシテ無  
爲ニ手榴彈ヲ投セシメタル後突撃スルヲ有利  
トスルコトアリ
- (5) 夜間ニモ砲撃ヲ實施スルヲ以テ陣地ノ正面ヨ  
リ眞直ニ突入スルハ不利ナリ
- (6) 敵ノ射撃ニ當シテ儘ニ應射スルコトナク敵ノ  
近接ヲ待チテ敵部隊ノ位置ヲ確認シタリ後及  
G「ノ一齊射撃ヲナスヲ有利トス

- (7) 夜襲部隊ニハ必ス戰車及裝甲車ヲ伴ヒ至近距  
離ニテ砲撃ヲナス、夜襲部隊ト協力ス
- (8) 徒歩部隊ハ手榴彈投擲位置ヨリ前進セスMG及  
Gニテ攻撃ス

- (7) 手榴彈投擲距離内ニ近接セシムルハ不利ナリ  
其ノ以前ニ好機ヲ見テ側面ヨリ機先ヲ制シ突  
入スルヲ可トス敵ハ追力極メテ微弱ナリ
- (8) 戰車ニ對スル攻撃モ同シ

- (9) 夜襲ニ際シテハ部隊ノ兩翼ニ戰車若クハ裝甲  
車ヲ以テ警戒シ照明星ヲ擲テ手榴彈ヲ時々投  
擲シテ夜襲ス
- (10) 自兵力ハ全クナシ

- (9) 夜襲ニ際シテハ部隊ノ兩翼ニ戰車若クハ裝甲  
車ヲ以テ警戒シ照明星ヲ擲テ手榴彈ヲ時々投  
擲シテ夜襲ス
- (10) 自兵力ハ全クナシ

其ノ五

## 敵夜襲ノ特徴

長谷部 部 隊

一、前日日没前長時間ニ亘リ猛烈ナル砲撃ヲ實施ス其ノ目的ヲ推定スルニ左ノ如クナルヘシ

- (1) 陣地竝ニ兵器ヲ破壊シ人員ヲ殺傷シ以テ防禦組織ヲ混亂セシム
- (2) 猛烈ナル長時間ノ砲撃ニヨリ防者ノ精神ヲ萎縮セシム
- (3) 夜間砲撃ヲ行ハントスル地點ニ對シ豫メ測定セル諸元ノ點檢修正ヲ實施ス

(4) 砲撃ニヨリ防者ヲシテ頭ヲ出ス能ハサランメ其ノ間彼ハ自由ニ防禦陣地ノ偵察ヲ實施ス一八月七日ノ夜襲ノ際ハ六日十六時半頃ヨリ薄暮時ニ至ル間三時間以上ノ砲撃ヲ實施シ八日ノ夜襲ノ際ハ七日十七時頃ヨリ晝間攻撃ヲ開始シ猛烈ナル砲撃ヲ行ヒ日没後約一時間ニ及ビ攻撃成功セスシテ第一線歩兵ハ稍々後退整理セルモ依然攻勢ヲ維持セラルヲ以テ我ハ敵ノ夜襲ヲ豫期セルニ果然同時頃夜襲シ來ルニ夜襲ヲ實施スル夜ハ斥候ノ出沒頻繁ナリ

三大規模ノ夜襲ハ黎明前ヲ選フカ如シ（七日ハ四時三十分頃、八日ハ四時少シ前ニ開始ス）

但シ局部的ニ行フ小夜襲ハ不規ナリ（〇時三十分、二時頃、三時頃ノ各種時刻ニ局部的夜襲ヲ受ク）

其ノ目的ヲ推定スルニ左ノ如クナルヘシ

(1) 周到ナル準備ヲ整フルタメ前半夜ノ實施困難ナルニヨルナラン

(2) 夜襲成功後防者ノ夜間逆襲ノ回避セントスルニヨルナラン彼ハ極度ニ我カ銃剣突撃ヲ畏怖シアリ

(3) 七、八日ノ月出ハ正子前後ナリ我カ軍ナレハ夜間ヲ利用センカ爲極力準備ヲ急キ前半夜ニ決行スルヲ通常トスルモ彼ハ好ンテ月明時ヲ選ビタルノ感アリ（從軍日尙殘ク前半夜月出ノ機會ニ邂逅セサルヲ以テ此ノ推定ハ或ハ適當ナラサルハシ）蓋シ月明ヲ利用シテ射撃ヲ有效ニ實施セントスルト我カ逆襲ノ銃剣突撃ヲ火力ヲ以テ阻止セントスル懸念ニ基クナラン

四 敵ハ夜襲ノ企圖ヲ秘匿セントスル概念ナク夜間ヲ利用シテ強襲スルノ色彩濃厚ナリ

第一項及第三項ノ(8)ノ外兵器彈藥其ノ他ノ資材ヲ運搬シ或ハ兵員ヲ輸送スルニ輕裝甲車或ハ自動貨車ヲ使用シ敵テ音響防止ノ手段ヲ講セサルカ如キ其ノ一例ナリ

五 信號彈ヲ盛ニ使用ス其ノ運動發揮ノ如キ或ハ砲臺開始ノ如キハ信號彈ニヨルモノノ如シ

六 曳光彈ヲ盛ニ使用ス之ニヨリテ射撃ヲ修正スルノミナラス前進方向誘導ニ使用シアルニアラスヤト思ハルル點アリ

七 防者ニ發見セラレ其ノ射撃ヲ彼レハ五百米位ノ距離ニ於テモ射撃ヲ開始シ其ノ猛射亂射ヲ繼續シツツ前進スルコト晝間攻撃ト何等異ナルコトナク手榴彈ノ如キモ有效距離外ヨリ盛ニ投擲ス蓋シ必勝ノ信念乏シク決死殉國ノ誠意ナキカタメ自己ノ銃砲聲ニ其ノ恐怖觀念ヲ消殺シツツ前進スルモノナラン

而シテ第一線歩兵防禦陣地ニ近迫シ或ハ時期（此ノ時期ハ未タ明確ニ捕捉シ得ス）ニ至レハ砲撃ヲ開始ス（信濃彈ニヨルカ如シ）

八、砲撃ニ當リ張鼓峰事件ニ於テハ友軍ニ被害ヲ與フルコトヲ極度ニ忌避セルカ如キモ本團ハ友軍第一線ニ危害ヲ與フルコトヲ何等顧慮スルコトナク第一線カ陣地ニ肉迫シ一部ハ突撃シアル狀況ニ於テモ依然トシテ陣地並ニ陣地後方ニ對シ砲撃ヲ繼續ス

第一線ニハ共產色濃厚ナラサル民兵ヲ配置シ正規兵ハ後方ニ於テ督戰ニ任シアリ民兵ノ如キハ如何ニ死傷スルモ彼等共產黨員ニハ何等痛痒ナキヲ以テナリトノ説ヲナスモノアルモ未タ其ノ確證ヲ得ス或ハ然ラシ

九、銃剣ヲ以テ突入セントスルノ著意殆ト無キカ如シ

毎團各方面ニ一部（十名、二十名ノ小部隊）陣地ニ肉迫セルモ銃剣ヲ使用セントセル者ナク我カ逆襲ニ恐レテ忽チ敗走シ或ハ手榴彈ニ驚キテ潰亂ス

我カ兵一名タリトモ陣地ニ嚴存スル限り敵ハ其ノ正面ヨリ突  
コトナシ

六 賊聲ヲ發シタル後射撃シ變來スルコトアリ

賊聲ヲ以テ我ヲ誘致シ射撃ヲ以テ之ヲ殺傷シタル後突入セントスルノ  
觀念ニ基クナラン勿論此ノ如キ致ヲ奏シタルコト無シ

七 成功セサル場合ハ猛烈ナル砲撃及戦車自動火器等ノ射撃ニ掩護セラレ  
ツツ概ネ聲聞陣地ノ裏ニ後退（潰走ニ近シ）スルヲ通常トス而シテ此  
ノ後退ノ爲ニハ諷メ掩護火網ノ準備アルコト及後方火器ヲ以テ第一線  
ヲ殺傷スルコトヲ意ニ介セサルノ態迎撃追撃等實施ニアタリ特ニ注意  
スヘキ件トス

八 局部的小夜襲ハ必スシモ我カ陣地ヲ奪取セントスルモノニアラス其ノ  
主目的ハ陣地ノ強弱ヲ打診セントスルニアルカ如ク威力偵察ノ色彩濃  
厚ナリ即チ源キ距離ヨリ猛射ヲ加ヘ多クハ陣前二百米位迄ニ近接シタ  
ル後隨意後退ス

## 敵夜襲ニ對スル對策

攻勢（進出）的意志ヲ有スル場合ト消耗戰（某地線確保）的意志ヲ有スル場合ニヨリ其ノ要領ヲ異ニスヘシ  
以下項ヲ別チテ說述セントス

一 攻勢（進出）的意志ヲ有スル場合

(1) 突撃歩兵ヲ陣前至近ニ誘致シ手榴彈ヲ以テ潰滅シ更ニ肉鎗スル者ハ陣地寸前ニ於テ刺殺殲滅ス此ノ間強力ナル豫備隊ヲ以テ出撃神速果敢ニ後方重火器（推進督戰火器ノ線ニシテ又退却掩護火器ノ線ナリ）ノ線ニ殺倒シ之ヲ蹂躪殲滅ス陣地重自動火器ハ突如出願シテ該線ニ猛射ヲ與ヘ出撃部隊ニ火力ヲ指向スルノ餘裕ナカラシム而シテ出撃部隊ノ特ニ留意スヘキハ敵ノ砲彈落下地帯ヲ躊躇ナク速カニ突破シ重火器地帯ニ近接スル點ニシテ其ノ神速果



敵ノ如何ハ成功ノ鍵ナリ

地形ノ敵狀之ヲ許セハ要圖ノ如ク側方ヨリ出撃スルヲ有利トスルモ  
己ムヲ得サレハ正面ノ一點ヲ突破シテ重火器線ノ中央ニ突入シ左右  
ニ戦果ヲ擴張ス

(2) 敵夜襲發彈ハ出撃重火器ノ線ト第一線歩兵ト重火器トヲ一線ニ殲滅  
ス要領ハ(1)ニ準ス但シ側方ヨリ出撃スル場合ニ於テ陣地正面ニハ極  
少敵ノ實員ト擬兵ヲ配置シテ敵ヲ偽屬シ全力ヲ提ケテ出撃スルモ一  
案ナルハシハ正面陣地ニハ少敵ナリトモ我兵隠存スル限り決シテ易  
々ト奪取セラルルコトナシ

ニ、消耗戦ハ某地線確保ノ的意志ヲ有スル場合

(1) 敵ヲ至近距離(五十米以内)ニ誘致シ俄然猛烈ナル射撃及手榴彈投  
擲ヲ實施ス

此ノ際出撃スヘキヤ否ヤハ狀況(特ニ敵砲彈落下ノ狀況及後方重火  
器ノ射撃及地形)ニ依ル、出撃ニアタリテハ後方重火器ノ制壓ノ手

段ヲ講スルコト及短節神速ニシテ陣地歸還ニ當リ敵後方重火器ヨリノ損害ヲ少クスルニ留意スルコト特ニ肝要ナリ

(2) 精銳ナル小隊部隊ヲ以テスル擾亂ヲ頻繁ニ反覆シ夜襲動作ヲ混亂セシメ其ノ企圖ヲ挫折セシム

敵ハ我カ斥候擾亂部隊等ニ對シテハ脚力追撃ヲ實施セス射撃ヲ以テ追撃スルヲ通常トシ小銃 MG ノミナラス戰車砲ヲ以テ數十分時ニ數時間ノ長キニ亘リ我カ後退方向ニ對シ盲目射撃ヲ繼續ス故ニヨク地形ヲ利用シ死角内ニ潜伏シテ此ノ射撃ノ止ムヲ待チテ歸還スルヲ可トス

敵ハ我小隊ナリト雖モ其ノ銃剣突撃ヲ覺レ近迫スルコト稀ナリ

(3) 敵砲撃ヲ行ヒツツ前進スル場合ハ假令敵第一線歩兵近接スルト雖モ手榴彈投擲距離迄ハ掩蔽下ニ待機シ陣地ニ出現セサルヲ要ス掩蔽ヲ有スル銃坐及監視哨ヲシテ射撃セシムルニ止ム

(4) 局部ニ對スル小夜襲ニ對シテハ決シテ敵ノ術策ニ乘ラサルコト及其

ノ術策ノ裏ヲカキ或ハ偽兵ヲオキ或ハ陣地ヲ變換シテ我カ凹角内ニ誘致シ或ハ彼ノ術策ニ乗ルト見セテ陣地ニ一部ノ自動火器ヲ出シテ應戦セシメ主力ヲ以テ思ハサル側背ヨリ急襲殲滅スル等毎回手段ヲ換エ敵ノ意表ニ出スルコト好要ナリ

### 三、共通的事項

- (1) 敵夜襲ノ特徴ニ於テ逃ヘタル夜襲ノ兆候ニ留意其ノ企圖ヲ速カニ察知スルコト
- (2) 斥候ヲ頻繁ニ派遣シテ敵情ヲ偵知スルコト
- (3) 敵兵ヲ捕獲シ之ニヨリ資料ヲ得ルコト
- (4) 砲撃ハ晝間夜間共斜射側射時ニアリテハ背射ヲ行フヲ特色トス其ノ損害ヲ滅殺スルタメニハ稀番適切ナル地形地物ノ利用及堅固ナル築城ヲ必要トス
- (5) 第一線ト其ノ後方トノ間ニ數時間ニ亘ル猛烈ナル阻止射撃ヲ行ヒタメニ原地上ニ延線セル電話ハ砲撃開始ト殆ト同時ニ切斷セラレ通話

不能ニ陥ルヲ通常トシ傳令ノ如キハ勿論前進頗ル困難ニシテ第一線ト後方トノ連絡杜絶ス故ニ第一線ト後方トノ間ニハ掩護確實ナル交通壕ヲ貫通シオクヲ要シ而シテナシ得レハ其ノ幅員ハ擔架搬送可能ナルヲ可トス敷時間ニ亘ル阻止射撃間重傷患者ノ後送不可能ナリシタメ生クヘキ者モ遂ニ死亡セシメタル苦キ經驗少カラス

之ヲ要スルニ敵ハ火力ヲ過信シ一面火力ヲ恐ルルコト甚シク又格闘能力頗ル低ク我カ銃剣突撃ヲ畏怖スルコト極端ナリ此ノ二大缺點ヲ熟知セハ如何ナル優勢ナル敵ト雖モ必ス寡兵ヲ以テ殲滅スルヲ得ヘシ專守防禦シアリテモ常ニ旺盛ナル攻撃精神ヲ失ハサルコト必要ナルハ論ヲ俟タサル所ナリ

長谷部支隊本部

### 一、夜間攻撃ノ特長

(1) 明暗ノ度ニ關係スルコトナク火力ヲ用フ（威赫的射撃又ハ威力搜索

的射撃)

- (2) 常ニ疎散ナル隊形ヲ用フルカ如シ
- (3) 曳光彈ヲ慎用ス(夜間攻撃ノ方向ヲ指示シ火力特ニ砲火トノ協力ヲ顧慮シアルカ如シ)
- (4) 主要ナル火力機關及主力ハ概シテ後方ニ避ヘ萬一ノ場合ニ備ヘ其カ反撃ヲ顧慮シアルモノノ如シ
- (5) 手榴彈ヲ慎用シ白兵ヲ使用スルコト稀ト有ナリ時々小銃ヲ有セサルモノアリ
- (6) 賊軍ヲ發シ突撃シ來ルモ威力ナシ
- (7) 單獨又ハ數名ヲ以テ奇襲的夜襲ヲ實施スルコトアリ  
(吾歩哨又ハ監視兵等ニ對シ實施ス)
- (8) 前進發起停止後退等ノ爲價値彈ヲ使用シ側背警戒ノ爲照明彈ヲ使用シアルモノノ如シ
- (9) 夜襲部隊前方二〇〇米位ニ若干ノ兵力ヲ推進シ先導警戒ニ當ラシ

ムルカ如シ

次ニ戰車ヲ陳開前進セシム

戰車ノ後方一〇〇米ヲ歩兵カ退尾ス

(10) 前進時非常ニ凄然（ウラー）其ノ他不明ノ言葉トシテ目標

ヲ捉ヘルコトナク戰車以下亂射シツツ前進ス

又手榴彈ノ目標ヲ認識スルコトナク投擲シアルコト多シ

(11) 敵ノ夜襲ノ時機ハ一定セサルモ薄暮又拂曉時戰場一般ニ活氣ヲ呈ス

ルカ如シ

(12) 夜襲ニハ熾烈ナル火砲ヲ伴ヒ遠距離ヨリ賊聲ヲ揚ケツツ前進シ近接

セハ賊聲ヲ揚ケス又近接シテモ突撃セサルヲ常トシ概ネ五〇米附近

ニ近接セハ手榴彈ヲ投擲シ退却ス

對策

一、寡兵ヲ以テ衆敵ニ對シ一地ヲ固守スル場合以外ハ火力ヲ用フルコトナク敵ヲ突撃距離ニ引キ付ケ一齊ニ手榴彈ヲ投シ自兵ヲ覆ツテ突撃スル

ヲ最良手段ト思考ス

二、一地ニ誦集シアル敵ヲ認メタル時ハ擲彈筒射撃ニ依リ敵ノ企圖ヲ挫折セシメ得

三、敵ノ側背ニ向フ突撃ハ效果大ナリ但シ阻止射撃ニ注意ヲ要ス

四、照明彈又ハ照明燈使用ハ敵砲兵ヲ誘致シ却ツテ不利ナルコトアルカ如シ

五、敵ノ方向ハ敵ノ射撃スル曳火彈ニ依リ容認スルコトヲ得

六、敵ハ手榴彈ノ盲投擲ト小銃輕機ノ盲射撃ヲ爲シ來ルコト多ク一般ニ射撃高キヲ以テ訪者ハ姿勢ヲ低クシ沈著シアラハ損害ヲ蒙ルコトナシ

0379



第二次「ノモンハン」事件ニ於ケル砲兵ニ講スル教訓

昭和十四年八月  
關東軍司令部參謀部



本書記載ノ事項ハ當司令部參謀部附離谷砲兵少佐カ昭和十四年七月十日ヨリ同月二十七日迄戰場ニ於テ親シク觀察體驗シタルトコロヲ歸來空惚ノ間ニ急遽整理シタルモノナリ或ハ局部的ノ觀察ニ流レ又鶴ヲ期シ難キモノナシトセサルモ取敢ス參考ノ爲印刷配布ス而シテ我カ軍ニ關スル事項ハ主トシテ砲兵大中隊ヲ對照トシテ記述セラレアリ

昭和十四年八月

關東軍參謀長 磯谷 廉介

## 諸言

先ツ特ニ高唱シタキハ張鼓峯附近ノ戰鬪ニ關スル教訓ハ實ニ適切ニ蒐集セラレアリ各部隊ハ更ニ之ヲ深ク研究シ教育訓練ノ參考トセラレンコトヲ望ム

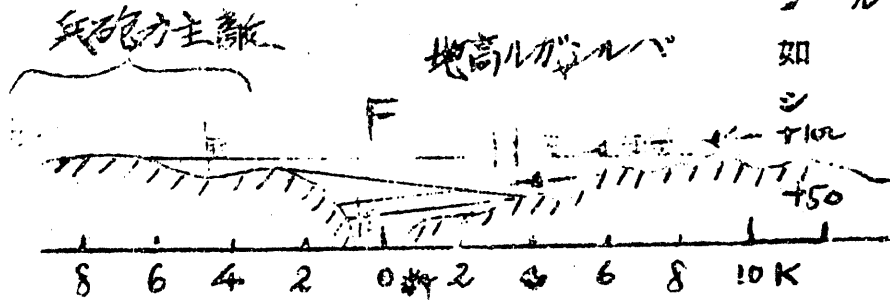
次ニ砲兵的ニ見タル本事件特異ノ點ヲ述ブレバ

一、敵砲兵ノ人的素質ハ軍備擴張及敷置ノ肅正工作ノ結果皇軍砲兵幹部ニ比スレバ劣等ナルベキハ想像ニ難ラズト雖モ七月中旬頃ニ於テハ敵ハ既ニ實彈ニ依リ長時日訓練セラレタル結果其ノ戦力ハ相當ニ見ルベキモノアリ然シテ輕視スベカラズ

二、戰場附近ノ地形ハ「ハルハ」河左岸ハ「スンプルオボ」附近ヲ最高所トシ北方ニ擴ガル台地ニシテ且台地端ノ急傾斜ハ諸所崖ヲ形成ス一ト併行ニ二三行後方ヨリ幅三四軒ノ淺キ凹地ヲ南北ニ有スル大波狀地ナリ「ハルハ」河右岸ハ「バルシヤガル」高地一帯及「ノロ」高地ニシテ最高所ハ「スンプルオボ」北方敵主力砲兵陣地帶ト格ニ同一標高ニシテ

⑦57南東調査ギリイ  
流合河面シテスルホレニルアリキ  
圖面断ル又連ヲ莫

一帯ノ砂丘地帯ナリ「バルシヤガル」高地ト「ノロ」高地トノ中間ニハ  
「ホルムスチン」河東西ニ流ル  
戰場一部ノ断面圖ノ概要左ノ如シ



ハハ河

隊標ハ七月二十五日頃ノ  
概略ノ位置ヲ示ス  
ハハ視界

地形右ノ如クナルヲ以テ被我共ニ砲兵ノ遮蔽十分ナラス（但シ「ハル」河谷ノ敵砲兵ハ能ク遮蔽シ發見甚ダ困難ナリキ）台上ノモノハ相互ニ火光ヲ標定スルコトヲ得ベシ

我が地帯ノ最高所ヨリ前方ノ砂丘ニ妨ゲラレテ「ハル」河谷ヲ観測スルコトヲ得ズ其ノ左岸台地ノ中央ヨリ上敵ノ第一ノ機線迄遠望シ得ベク第一ノ第二機線ハ約二―三密位ノ差ヲ以テ重疊シアリ而シテ「ハル」河谷ハ同河ヨリ約四杆ノ砂丘ニ立テテ諸所観測シ得ルモ橋梁ハ尙前方ノ台地端ニ出デサレハ観測困難ナリ

三 地形ノ關係上相互ニ大射距離ノ射撃ヲ實施セサルベカラザル狀況ニ在リ從ツテ射撃ハ困難ニシテ冬クノ彈藥ト時間トヲ必要トス

四 制空權ハ概ネ我が有ニシテ一部ノ偵察飛行機ヲ以テ空襲射撃ヲ實施スルコトヲ得タリ

五 砂丘地帯ナル爲砲彈ノ效力ハ著ク減殺セラレ又兵器保存上特ニ注意ヲ要ス

六、情報聯隊ノ活動顯著ニシテ其ノ成果大ナルモノアリ

第一節 蘇軍ノ砲兵戰闘

一、用法

重點方面ニ砲兵ノ主火力ヲ使用スルノ件ニ關シテハ從來不十分ナルノ批評アリシモ本戰闘間ニ於テハ必ズシモ然ラザリキ

七月中旬「ホルムスタイン」河南岸「ノロ」高地方面ニ對シテハ四五日間連日殆ンド全火力ヲ使用シ又他ノ時期ニ於テハ「ホルムスタイン」河北岸ノ我が第一線ニ時々主火力ヲ使用セリ

又我が半遮蔽砲兵或ハ觀測所或ハ歩兵部隊ノ占領セル砂丘等ニ對シテハ通常ニ三中隊稀ニ八九中隊ノ集中射撃ヲ實施セリ

射撃開始ハ拂曉ヨリ實施シ夜半迄斷續スルコト多シ而シテ拂曉以後當分ノ間我が軍ヲ發見セシヤ否ヤ不明ナルモ著明ナル砂丘又ハ前日迄我が歩砲兵ノ占領シテアリシ地點等ニ射撃ヲ指向ス而シテ其ノ射撃ハ恰モ試射又ハ射撃ノ點檢ノ如ク或ハ其ノ目的攻撃準備妨害ト想像セララルルモノアリ

我が砲兵ニシテ半遮蔽ノ状態ニ在リテ射撃ヲ開始センカ敵砲兵ハ直チニ  
 試射ヲ始メ遂ニハ少クモ二三ヶ中隊ノ集中射撃ヲ受クルニ至ルコトアリ  
 我が遮蔽淺クシテ火光ヲ發見セラルルモノニ對シテモ亦同様ナルモ我が  
 損害ハ比較的尠少ナリ

敵砲兵ハ射撃目的ヲ達成スル迄又ハ效果ヲ發揮スル迄徹底的ニ射撃ヲ繼  
 續スル著意少ク其ノ火力ノ使用時期的ニ分散使用ノ傾向アリ敵ハ好シテ  
 長射程砲ヲ以テ擾亂射撃ヲ實施ス我が主力砲兵ノ戦闘参加（七月二十三  
 日）以前ニ於テハ數日間通常夕刻以後我が兵團ノ補給所ヲ十五加下二中  
 隊ヲ以テ十數發射撃セリ七月二十三日以前ニ於テハ敵ハ其ノ數ヶ中隊ヲ  
 「ハルハ」河河谷ニ配置シ觀測所ヲ第一線若クハ後方高地ニ出シテ我が  
 第一線ヲ射撃セリ敵砲兵ハ七月二十三日以前ニ於テハ一日八〇〇―一八  
 〇〇平均約一〇〇〇發ヲ使用セリ此ノ砲兵ハ我が方ヨリ砂丘ノ爲ニ遮ギラ  
 レテ發見スルヲ得ズ又空中觀測ニ依ルモ發見困難ニシテ相當惱マサレシ  
 モノニシテ用法亦概ネ適當ナリト謂フヘシ

## ニ對砲兵戰

敵砲兵ノ觀測所ハ「スンプルオポー」ノ制高地點ヲ占メ且廣正面ニ分散シアリ尙通信網ハ有線、無線ヲ使用スルモノノ如ク又測地ヲ實施シ標定ヲ行フモノノ如シ多クノ場合我ガ砲兵ノ射撃ニ追從シ射撃スルモ稀ニ突然集中射撃ヲ行フコトアリ我ガ砲兵射撃ヲ開始スルヤ暫時ノ後敵砲兵亦報復的射撃ヲ開始ス我ガ砲兵ガ新陣地ヨリ射撃セシトキハ敵砲兵ハ其ノ附近ノ著明ナル砂丘ニ對スル諸元ヲ利用スルナラン相當ニ迅速ニ射撃ヲ開始シ暫時ノ後遠近ニ夾又シタル後有效ナル射撃ヲ敵中隊ヲ以テ施行スルニ至ル蓋シ我ガ砲兵ノ占領地域ハ砂丘地帯ニシテ敵方ヨリ見レバ稜線（砂丘）ト稜線（砂丘）トノ間ニ明瞭ニ火光ヲ發見シ得ベク且稜線ノ距離差ハ僅少ナルヲ以テ從令一方向觀測ト雖モ相當有效ナル射撃ヲ行フコトヲ得ヘシ況ンヤ敵ハ廣正面ニ觀測配置ヲ爲シ標定スル可能性アルニ於

オヤ

我が砲兵射撃ヲ中止セハ暫時ノ後敵亦射撃ヲ中止スルヲ通常トス  
 我が観測所ニ對シテハ我ニシテ若シ著明ナル砂丘ノ頂上等ヲ選定セン  
 ガ相當有數ナル射撃ヲ受クルニ至ルコト多シ

本射撃モ亦通常ニ三ヶ中隊ノ集中射撃ニ依ルコト屢トナリ  
 集中射撃ハ地域射撃又ハ單ナル同時的集中ニシテ平均點必ズシモ確實ニ掌  
 握セラレアラザル如シ又著明ナル地物ノ位置以外ニ觀測所ヲ選定セシト  
 キ我ニシテ若シ不審慎ナル動作ヲ爲セバ二三日目ニハ發見セラレ相當有  
 數ナル射撃ヲ受クルニ至ル

### 三、火力ニ對スル恐怖

蘇軍砲兵ハ一度我が有效ナル砲火ヲ受クルヤ沈黙シ或ハ位置ヲ移動ス又  
 火砲ヲ捨テテ一時逃ゲ去ルモノ多シ蓋シ機械化部隊ニシテ地形上位置ノ  
 移動ハ迅速容易ナルニ因ルモノナリ然レドモ稀ニ我が砲火ヲ受クルモ  
 容易ニ沈黙セザリシモノナキニシモアラズ

### 四、射撃ノ要領



ノ測地成果ヲ使用シアルハ明瞭ニシテ七月二十二日ニハ現ニ敵ガ測地ヲ  
實施シツツアルヲ目撃セリ而シテ我が砲兵ノ火光ヲ發見セハ少クモ之  
ヲ標定シ交會法ニ依ル試射ヲ行フモノノ如シ

2. 試射ハ交叉法ヲ用アルモノ有ルモ既ニ試射シアリ又ハ射撃セン地點ニ對シ  
テハ保留諸元ヲ以テ直ニ效力射ヲ行フ

交叉法ノ射距離變換ハ機敏ナリト謂フヲ得ズ即チ數段同一射距離ヲ以  
テ連彈又ハ近彈ヲ發射シタル後射距離ヲ變換ス

3. 效力射間ニ於ケル射彈ノ觀測ハ巧妙ニハアラザルモ努力ナルノ狀況ヲ  
觀察シ得七月二十三日十五時薄地ニ對シ敵ハ一ヶ中隊ヲ以テ射撃セシ  
ガ試射ノ後效力射ニ移リタルニ效力射中ノ射彈ノ動キヲ見ルトキハ射  
彈觀測ニ努力ヲ時ヲ認メザルヲ得ザリキ

4. 良火射撃ハ小口徑砲ニテ稀シニ實施スルモ破裂高一般ニ高ク效果少シ

5. 射撃ノ精度ハ概ネ良好ナリ實測ハセザリシモ側方ノ砂丘ニ落達セル集中

射撃、其ノ他吾人ノ近方ニ落達セル彈丸ノ景況ヲ見ルニ相當ナル精度ニ在リ。且關係彈道辨モ相當ニ修正セラレアリテ所謂筒先滴ヒアリ、遠近兩極限ニ夾又シタル後中數表尺ニ移ル等敵ノ射撃諸元ノ修正亦明瞭ニ之ヲ觀察スルコトヲ得ルコトアリ然レドモ平均點ノ掌握、指導ハ巧ナリト謂フヲ得ズ

#### 六、偽裝、偽

偽裝ハ良好ニシテ敵ノ視測所ハ容易ニ發見シ難シ只人ノ出入、自動車ノ停止等ニシテ判明シ得

又擧砲火ヲ相當使用セシモノノ如シ吾人ハ之ニ無駄彈丸ヲ使用セザル如ク十分ナル注意ヲ要ス之方爲火光ト彈著トノ關係ヲ確認スルコトニ努ムルヲ要ス

#### 第二節 我が軍ノ他兵戰闘並ニ敵訓

吾人が戰場ニ在リシ期間ハ僅少ニシテ調査不徹底ナルモノアルモ左ニ之ヲ列記ス

### 一、對戰車射擊及對戰車肉迫攻撃

中距離以上ノ移動中ノ對戰車射擊ハ我方使用スル彈藥數ニ比シ通常效  
果尠キヲ以テ當初射擊セシ外特ニ必要ナル場合ノ外殆ンド射擊セズ然レ  
ドモ停止セル戰車群ニ對シテハ稀ニ射擊セシコトアリ之ニ依リ敵戰車ハ  
移動ヲ開始スルニ至ル

近距離特ニ五百六百米以内ノ對戰車射擊ハ沈著シテ射擊セハ百發百中ナリ  
是レ近年對戰車射擊ヲ相當訓練セシ結果ナラン

我が野砲兵ハ苟シクモ放列ヲ布置シテ如何ニ多クノ敵戰車ニ包  
圍セラルルモ何等ノ危惧ヲ抱カサル域ニ達シアリ

敵ハ夜間十數臺一團トナリテ歩兵ト共ニ我方陣地前近距離ニ現出シ戰車  
ハ砲塔ノミヲ出シテ我方方ヲ射擊ス故ニ拂曉時ニハ良ク搜索シテ速ニ  
此等ヲ發見シ撲滅スルヲ要ス

我ニ向進セザル戰車ニ對シ過早ニ暴露陣地ニ火砲ヲ推進シ戰車砲ノ好餌  
トナラザルコト亦必要ナリ

## 對戰車肉迫攻撃

「サイダー」空壕ニ「ガソリン」八分目位迄入レ一重サヲ附スル爲砂ヲ若干入ルルヲ可トスルノ案アリ一布片ヲ以テ固ク栓シ栓ニ點火一戰車加熱シアル際ハ必ズシモ栓ニ點火スルヲ要セズ一シタル後戰車ノ後端上面ニ向ヒ投擲スルトキハ直ニ敵戰車ニ火災ヲ發セシムルコトヲ得此ノ方法ハ各兵科共實用セラレシトコロナリ

## 二、對歩兵及對重火器

對疎開歩兵射撃ハ稀ニ實施セシコトアリ七月二十五日敵ガ「ホルムステ」河南岸「ノロ」高地方向ニ向ヒ數群ノ疎開隊形ニテ前灣中九〇野砲ヲ以テ射距離約四千ニテ射撃ヲ爲セシニ恰モ霰ニテ掃ク如ク一群毎ニ消滅セシ狀況ハ我ガ兵團戰團司令所ヨリ明瞭ニ看取セラレシト云フ

對重火器射撃ハ屢々之ヲ實施ス中距離以下ニシテ中隊長カ四門ノ射向及射距離ヲ能ク掌握シアリシトキハ各々敵ノ重火器ニ指向シ效力射ヲ行ヒ之ヲ撲滅セシコトアリキ七月二十三日伊勢部隊某中隊ノ歩兵某部隊正

面ニ頑強ニ抵抗セシ敵個ノ機關銃ヲ撲滅セシハ此ノ例ナリ然レドモ遠隔  
 観測ニテ射距離稍大ナルハ通常精度良好ナル一門ヲ以テ逐次撲滅セリ發  
 射速度迅速ナル野砲級ニテハ此ノ射法ヲ採用スルヲ可トセン

### 三、對砲兵戰

三八式野砲及十二榴ヲ以テスル對砲兵戰ハ稀ニ實施セシモ目標ハ通常火  
 光砲兵ニシテ縱深大ナル淺キ凹地ニ在リ且我ハ一方向ノ観測ナリシヲ以  
 テ此ノ敵砲兵ガ我が第一線ヲ射撃スルコト明瞭ニシテ方止ムヲ得ザルト  
 キニ之ヲ制壓セリ

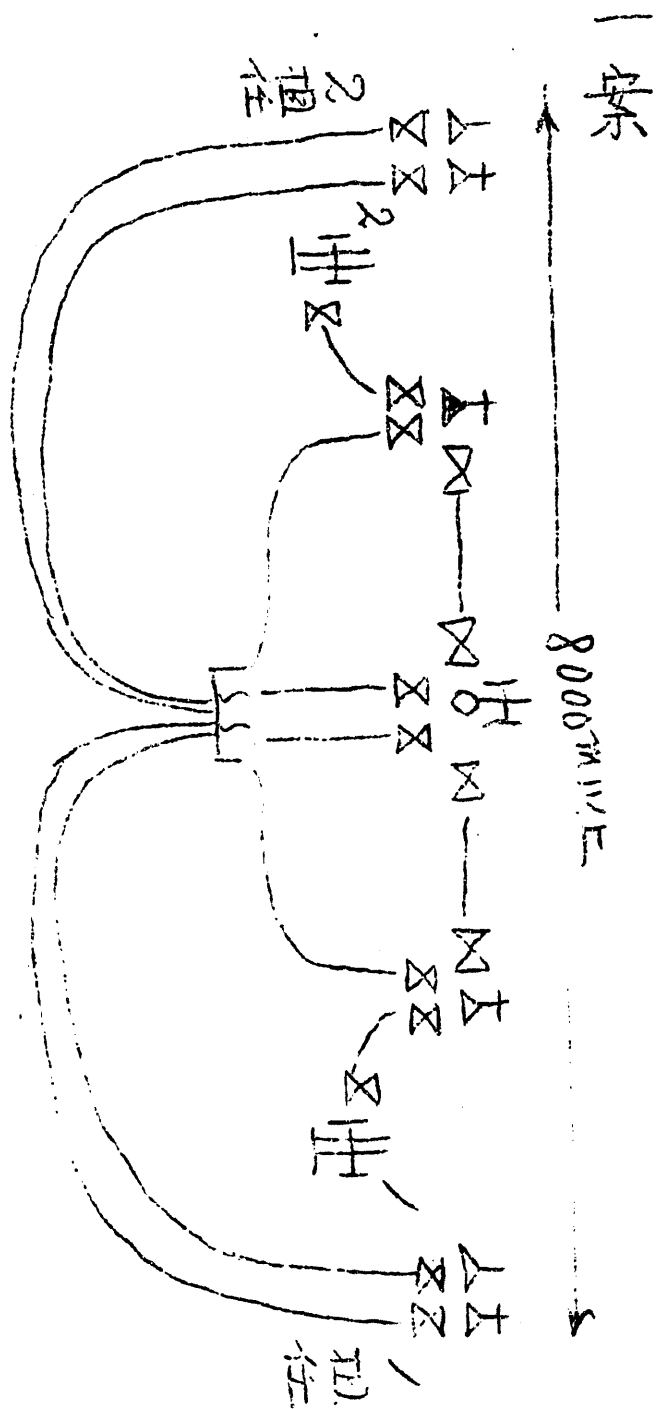
火光ヲ一方向ニテ嚴密ニ標定シ我方射撃ヲ其ノ方向ニ精密ニ指向シ火光  
 ノ高サ及火砲ノ大小種類ニ鑑ミ我方爆煙ノ脚ノ稜線ニ匿ルル程度ヲ見テ  
 數距離上ノ射撃ヲ爲サザルヘカラザルニ此ノ著意不十分ノモノ少シトセ  
 ズ七月二十四日伊勢部隊某中隊ニテ射距離的六千ニテ距離差百米各距離  
 三發五距離ノ射撃ヲ爲セシ敵砲兵ハ忽チ沈黙セリ然レドモ斯クノ如ク縱  
 深大ナル淺キ凹地ニ在ル火光砲兵ニ對シテ一方向観測ニテ制壓射撃ヲ行

アハ片止ムヲ得ザル場合ニシテ決シテ推疑スヘキモノニアラズ此ノ例ノ  
 如キハ偶然目的ヲ達セシモノナルコトニ注意スルヲ要ス九〇〇ヤハ止  
 ムヲ得ズ若干對砲兵戰ヲ實施セリ目標ノ多クハ一ハルハ一海左岸大砲  
 兵ニシテ稀ニ暴威砲兵アリキ我ガ二ヶ中隊ヲ集中シ相當ノ損害ヲ與ヘタ  
 リ射距離一五〇乃至一萬三千附近ニシテ公算躲避ノ關係上之ニ制壓ス  
 ルニハ相當多量ノ彈藥ヲ要セリ其ノ他ノ火砲ニテハ主トシテ對砲兵戰ヲ  
 實施セルモ其ノ要領ハ當初空視射撃ト交會法トニ依レリ一空視射撃ニ就  
 テハ後述ス一縱深大ナル淺キ凹地ニテハ何處ニ在ルモ火光ノ見ニ具合ハ  
 同様ニシテ其ノ位置ノ判斷困難ナルヲ以テ此ノ種火光砲兵ノ制壓又ハ操  
 縱ヲ地上視測ニテ實施センガ爲ニハ大間隔ニ開キタル補助視測所ヲ使用  
 シ方位交會法爲シ得レバ偏差交會法ヲ實施スルヲ要シ方位交會法ニテ  
 米交又ハ兩極限ヲ得ンカ爲ニハ視目距離一五四千米ニテハ兩視測所ノ間  
 隔少クモ約七千八百米ヲ要ス此ノ離隔度ニ關スル著意一般ニ甚クシク缺  
 如シアリ故ニ一ノ若シハ二ニ於ケル我ガ對砲戰ヲ主トスル砲兵戰ハ有

力ナル補助観測所ヲ一ハルシヤル一高地北端附近及一ノ一高地附近  
 ニ出シ情報聯隊ニ連絡シテ火光ノ座標ヲ求メ座標圖ニ依リ各補助観測所  
 ヨリ見タル基點ヨリ射撃セントスル火光ニ至ル方向ヲ求メテ之ヲ補助観  
 測所ニ通報シ以テ其ノ附近ノ火光ヲ促ヘ且之ヲ誤認セザル如ク標定セシ  
 メ又放列附近ヨリハ精密ニ火光ヲ標定シテ各門ノ射向ヲ精密ニ各火光ニ  
 指向セシムルヲ要ス一方六千米ノ火光ニ對シ半密仕離レタル射撃ハ敵砲  
 軍ヨリ八米側方ニ落達シ例ヘ射距離良好ナリト雖モ何等ノ效力ナキコト  
 ニ想到スルヲ要ス射向ヲ精密ニ修正スヘキハ偏差交會法射撃ヲ行フモ嚴  
 密ニ行フヘキコトナリ、尙各砲車ノ關係彈道癡ヲ求メテ所謂筒先ヲ捕ヘ  
 各砲車ハ射撃設備ヲ完全ニシ射撃精度向上ノ爲有スル手段ヲ盡クシ以テ  
 精密射撃ニ徹底スルヲ要ス聯隊又ハ大隊ハ統一ノ人員器材、自衛警戒、宿  
 營、給養ノ關係ヲ率ス一シテ速クニ補助観測所群ヲ差遣シ成シタル限り  
 ニケ中隊ニ三方向ノ偏差交會法射撃ヲ實施シ得ル如ク通信連絡ヲ行フコ  
 可トス

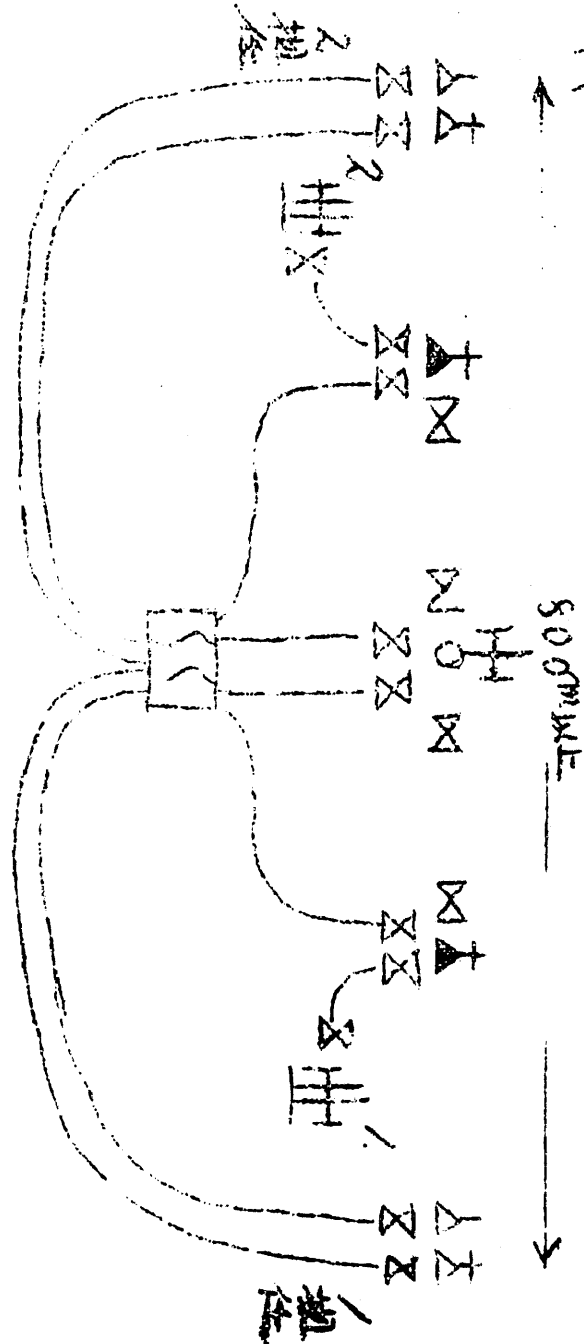
0396

9680





一案



中城が一基トナリテ能一基ニ進出スルコトハ容易ナルヲ補助規  
 測所ヲ獨立シテ遠方ニ出スコトハ戰場ニ於テハ容易ナルコトニ  
 アラサルヲ以テ是特斷不取ニ於テ之ヲ統一シテ出スヲ要ス

又情報聯隊ニテ標定セル火光砲兵中所需ノモノニ對シテハ各隊  
ハ偏差交會法總團ヨリ用意シ置クヲ要ス

斯クシテ少クモ二三分中隊逐次良好ナル射撃ヲ得タニ後總團ニ合ス  
ル如ク必要ニシテ最少隊ノ射撃ヲ使用シ撤ケ中隊ノ突撃射撃ノ實施セバ  
其ノ目標ニ對シテハ大打撃ヲ與フルコトヲ得ヘシ

有キ隊長ヲ總大ニ評價シ不十分ノ射撃ヲ以テ中隊ニシテ止ムルハ不可  
アリ而シテ一隊總團又ハ總團セシ砲兵ニ對シテハ總團ヲ忘ラス約二三十分  
ノ後更ニ各門砲台ノ集中射撃ヲ行ヒ其傷者ノ收斂等ニテ其ノ附近ニ蟻集セ  
ル隊兵ヲ撲滅スルヲ可トス我が砲兵中損害ヲ受シ直後ハ最モ此ノ射撃ニ  
適スル狀況ニ在リキ哉心ヲ要スルモトス

我方中隊大隊ガ一部ニシテ一海南岸ノ聯隊本部ト同河北岸ノ大隊本部  
トノ間距離約四千米ニテ行ヘル方位交會法射撃ハ相當ノ成果ヲ得又十五榴  
大隊ノ集中射撃後二十分ノ後行ヘル若干發ノ射撃ハ相當ノ效果アリシモ  
ノヲ別斷セラル

## 四 偽爆動作ニ對スル注意

伊勢部隊ニ於テ右側方又ニ島部隊ニテ左側方各々約三、四百米ノ處ニ偽爆測所ヲ設置シ一部ノ實員ヲ行動セシメタルニ連日數十發ノ射撃ヲ實施シ我が觀測所ニハ殆ンド射撃ヲ受ケザルコトアリキ斯クノ如ク偽爆ハ相當ニ有效ナリ然ルニ日本人ハ一般ニ斯クノ如キ偽爆ヲ行フニトハ憶効ニ考ヘラレ容易ニ實施セザルヲ通常トス優勢砲兵トシテ射撃ニ於テハ特ニ此ノ必要アリ。觀測所又ハ放列陣地ヲ密接セントスルトキハ力メテ舊位置ニ偽爆ノ處置ヲ設スルノ要ス而シテ敵ハ誘砲火ヲ相繼ぎ使用セルモノヲ如シ之ヲ發見スルノ方法ハ火光ノ狀況ヲ大倍率ノ眼鏡ニテ觀測シ其ノ火砲ガ加農ナリヤ榴彈砲ナリヤ又其ノ口径ヲ如何ニ觀察シ更ニ彈着ノ狀況ニ依リ彈道音ト共ニ此ノ彈丸ガ加農ナリヤ榴彈砲ナリヤヲ研究シ測秒器ヲ以テ發射ヨリ彈着ニ至ル時間ヲ測定シ又射距離ニ依リテ經過時間ガ果シテ測秒ノ結果ニ合致セリヤ否ヤヲ檢シ以テ發見セシ火光ヲ確實ニ擬砲火ナリヤ眞砲火ナリヤヲ區メタル後射撃ノ決心ヲ爲ス要アリ

又我ニシテ機砲火ヲ使用セントスルトキハ機砲火ナルコトヲ察知セザレバザランガ爲多致シ砲兵ノ發射スル時機ニ舊陣地又ハ偽陣地等ヨリ實施スルヲ要スルハ明カナリ此ノ機砲火ハ各砲種ノ眞ノ發射ノ火光ニ近似セシメ得バ更ニ可ナリ

### 三 空機射撃ニ就テ

絕對ノ制空權ヲ四六時中我ニ保有スルニトシテ、對敵作戦ノ主眼ナル正面ニ於テモ存在セズト云フコトヲ得バシ新ク、如キ状態ハ一日中ノ某短時間某時期毎ニ存在スルモノト考フルヲ要ス而シテ其ノ時期ト雖モ勇慮ナル敵國國境ハ其ノ遠度ヲ利用シ覆問ヨリ突然現出スル等ニ依リ我ガ偵察機ヲ運用スルニトアルベキヲ覺悟セザルベカラズ故ニ地上部隊ハ空中偵察者ノ在空時限ヲ短縮シ便短縮スル如ク射撃ヲ施行セザルベカラズ、射撃部隊ハ有シテモ火油ヲ節約得ルガ如キ目標ニ對シテハ益々空中偵察者ヲ派ルベシト覺悟スル如ク射撃機ニ依リ目的ヲ遂行スルヲ覺悟スルヲ要ス然レドモ時ニ至リテ某時強固空權完全ニ我ガ有ナルヲ好機アラバ僅少ノ時間ニ

地上観測ニテ最大限良好ナル效力ヲ求メタル後空中偵察者ニ依リ  
 更ニヨリ有效ナル射撃諸元ヲ決定スル如クスルコトヲ得バ我が砲火ノ効  
 力ハ更ニ一層増大スベキハ勿論ニシテ大ニ望マシキコトトス  
 東方面面ニ於テハ地上ヨリ到底火光ヲモ發見シ得ザル多數ノ敵砲兵現出  
 スベキハ火ヲ隨ルヨリモ明カナリ斯クノ如キ際音源標定又ハ空中寫眞ニ  
 依リ概略其ノ位置ヲ決定シ曳火高破裂射撃ニ依リ試射シ空視ニ依リ良好  
 ナル諸元ヲ點檢スルコトアルベキモ射撃部隊ハ飽クマテ前述ノ趣旨ニ依  
 リ空視射撃ヲ實施スルヲ要ス甚ダ遺憾ナルモ空中偵察者ニ代リ射撃部隊  
 ニ對シ左ニ重大ナル苦言ヲ述ベントス  
 往々ニシテ砲兵中隊ガ四門ノ射程モ揃ヘズ測地諸元ニ氣象ノ修正モ施サ  
 ズ射向ノ盛進スラ不十分ニシテ試射ノ最初ヨリ射撃修正ヲ空中偵察者ニ  
 委ネントスルノ傾向ナキニシモアラザリシハ頗ブル遺憾トスルトコロ從  
 ツテ一目標ニ對スル試射ニ多大ノ時間ヲ浪費セシコトアリ地上部隊ハ  
 宜シク空中偵察者ガ索敵シツツ且重大ナル危険ニ懸サレテラ観測シツツ

アルノ状況ニ思フ致シ苟クモ斯クノ如キハ、一機ヲ失フニ至ルベシアリ  
 空機射撃ノ練習中並ニ其ノ實施中我が偵察機ガ敵機ヲ多キハ十數  
 機少クモ三機ノ墜落ヲ受ケテ機體シ我ガ機體ニ各種ノ損害ヲ受タルコト  
 屢トナリキ

七月二、三日頃「ホルムチン」河南側「ノロ」高地北側ニ侵入セシ歩兵  
 約百戰車十發煙火砲四門ニ對シ砲兵ノ制壓ヲ希望セラレタルモ我が砲兵  
 ノ射撃ハ陣地ノ關係上容易ニ着手スルニ至ラザリシガ空機射撃ノ練習ヨ  
 リ飛行場ニ着陸セシ某砲兵大尉ヨリ其ノ砲兵發見ノ報告アリ直ニ某砲兵  
 中尉ガ偵察將校トシテ飛ビ出シ九〇野砲ヲ指導シ射距離約四千餘ニテ忽  
 チニシテ之ヲ撲滅セリ其ノ他本戰團間空中偵察者ニ依リ偵察シ敵砲兵ヲ  
 撲滅セシコト屢トナリキ以上ノ如ク空機射撃ノ對砲兵戰ニ有利ナルハ論  
 ブル迄モナシ

無線電話ハ空地連絡ノ爲甚ク有利ニシテ空機射撃ノ利益ヲ發揮スル爲最  
 來益ト發達セシムルヲ要ス

砲兵部隊ノ對空通信班ノ教育大塚本部以下ノ空地連絡、空機射撃、計畫指導及實施ニ於テ向上ノ餘地頗ル大ナリ

#### 六、歩、砲協同ニ就テ

創立日尙淺キ伊勢部隊並ニ宮尾部隊ガ歩砲協同ニ關シテハ遺憾ナク努力セシハ感嘆ノ外ナシ

中隊長ヲ核心トシ一團トナリ或ハ中隊長ガ挺進シテ第一線ニ出デ射撃セシコトハ屢々ニシテ之ガ爲或時ハ敵砲兵又ハ速射砲或ハ機關銃火ノ爲中隊長戦死シ其ノ他損害ヲ受シコト少ナカラザリキ

又某歩兵部隊ノ如キハ連日優勢ナル砲兵ノ爲砲撃セラレ相當ノ損害アルニモ拘ラズ我が砲兵ノ陣地特ニ観測所獲得ノ爲前方ノ敵ヲ驅逐シ又側方ニ對スル願慮上兵力僅少ノ部隊ナルニモ拘ラズ貴重ナル兵力ヲ削キテ砲兵ヲ掩護センガ如キ又配屬砲兵ニ對シ終始、給養其ノ他親身モ及バザル庇護ヲ與ヘラレシハ傍ニ在ルモノヲシテ感戴堪ヘザラシメタルトコロナリ  
只向上ノ地點ト現地トノ認識ノ相違ヨリ一時意志ノ疎通ヲ害セシコトアリ

シモ現地ニ就キ砲ヲ離レテ一アノ高地ヲ占領セラレタシ一ヨシ占領ス  
 ル一トノ協定ニ依リ解決セシコトアリキ  
 又砲兵ハ歩兵ヨリ砲兵ノ見エザル目標又ハ射撃シ得ザル目標ニ對シ射撃  
 ヲ要求セラルルコトハ最モ苦痛トスルトコロニシテ此ノ際砲兵ハ萬全ノ  
 努力ヲ致スベク尙相互ノ理解ヲ常ニ十分深メ置クコトノ必要ヲ痛感ス  
 七情報聯隊ノ活動ニ就テ

情報聯隊ノ活躍ハ實ニ目覺シキモノアリ即チ精度良好ナル測地ヲ行ヒ火  
 光砲兵ノ敵觀測所等ヲ標定シ空中寫眞ヲ判讀シ音源ヲ標定シ以テ敵砲兵  
 ニ關スル情報ヲ收集シ審査シ氣象ヲ觀測シテ之ヲ通報ス尙部隊ノ測地ヲ  
 指導シ射撃ノ觀測ヲ援助ス實ニ一餅屋ハ餅屋ナリ一トノ評ハ情報聯隊ニ  
 向ツテ云フベキ最モ適切ナル言葉ナリキ  
 射撃部隊ハ情報聯隊ノ活動ニ依リテ得タル成果ヲ完全ニ射撃ニ利用シ得  
 ザルベカラズ之ガ爲ニハ射撃部隊將校ノ教育訓練ノ餘地相當大ナルヲ認  
 メザルヲ得ザリキ



拂曉敵ノ火光也。此ノ時、我軍ノ陣中ニハ既ニ前日迄ニ決定シ  
 アル火光ナルヲ直ニ目標監視ノ通報ヲ受テ、テハ場合ニ於テモ、分ノ後  
 其ノ座標ノ通報ヲ受クルコトヲ待各部隊ハ訓練サヘ宜シク又其ノ意志サ  
 ヘアラバ此ノ計算法ニ依リ射撃開始諸元ヲ待ハ之ヲ實施セル中際ノ存  
 在スルハ勿論ナリ。一機測地信ノ設備並ニ無線ノ準備ニ依リ三十分是ラ  
 スノ時間ヲ以テ砲差交會法射撃ヲ開始シ得ベキ状況ニ在リシモノトヲ思  
 考ス今尙一ノ心ヲ以テ活動シツツアル砲兵隊ハ既ニ斯クノ如キ點  
 ハ十分矯正セラレ且夜間ヲ向テシテアルコトヲ信スルモ、砲隊ニ於テモ所  
 クノ如キ利用スヘキ時機ヲ爲シ、其ノ限リ利用スルノ技術ト著意ト企圖心  
 トヲ保持スルヲ要ス。

八砲兵ノ射撃技術的事項ニ就テ

前掲技術關係ノ外に、意ヲ付スルべき事項ヲ述テレバ左ノ如シ

ノ射向ノ掌握ノ操縱ニ關シ一按ノ同上ヲ要ス地形上射距離大ナリシコト  
 多ク且火砲ノ狀況ニ於テ射撃權威低下ナル理由モアリシナリ。モ放列

視測射撃ニ於テサハ四門ノ射向ヲ精密ニ火光ニ指向スル爲其ノ線縦遠切ナラザルモノアリ況ンヤ遠隔視測射撃ニ於テサヤ之ガ爲平素遠隔視測ニ於テ四門ヲ以テスル射撃ヲモ相當ニ訓練スルヲ要ス

2 射距離ノ不測ナルモノ多シ

射撃ノ結果ヲ利用シ逐次ノ測算修正量ヲ求ムルノ要領ニ依リ關係彈道辨ヲ修正スルノ著意必要ナリ各部隊モ成ルベク速カニ火砲彈道辨ノ測定ヲ實施スルニト必要ナリ

3 射撃命令ノ簡便

若シシク不良ニシテ注意疎ニ試射ノ完了ヲ遲延スルモノアリ射撃教練要領ノ結果ナリト謂フベシ

4 氣象器材、各種測角、測距器材ノ點檢規正射撃精度ノ向上ニシテ彈藥

ノ節用。在部隊ノ射撃處所ノ利用等射撃施行上重大ナル關係アルニ係ラズ一般ニ之ニ對スル著意不十分ナリ

火砲銃口照準具及各種視測器材  
ヲ定誤差トスル點ニ歸シ著意ノ足ラザルモノアリ

6. 架脚下放車輪下ニ十分ナル作業ヲ實施シ射擊精度ヲ向上シ又射擊間彈丸裝填ノ力ノ一定變裝填ニ對シ裝藥壓力ノ一定砲身加熱セラレアル際ノ彈藥特ニ裝藥裝填ノ時機ト發射トノ關係ヲ彈盡及彈藥ノ同等ニ對スル蓋運ニ使用上ノ著意等ニ至リテハ一般ノ關心十分ト請ヒ難シ

九工 事

工事ノ進メテ實施セリ後方射擊ノ精度ヲ向上シ補給ヲ減少スルガミナラズ此等シテ射擊セシムルニ十分ナル工事ヲ實施スルニ要ス  
砲兵掩体ハ砲ルベク小トシ以テ敵ノ全彈ヲ掩体内ニ落着セザル由ク方ムルヲ可トス掩体内ニ落着セズ如何ナル場合ニ於テモ若干ノ損害ハ免ラザルモノトス砲臺所ハ殆ンド常ニ工事ヲ實施セリ而シテ遠近ノ前方斜面ニ於テハ成ルベク掘土ヲ前方斜面上ニ開ササルヲ可トス是レ敵ニ發見セラルルノ端トナルヲ以テナリ而シテ工事ハ個人掩体ヲ以テテ微小ナル交

通線ヲ以テ連接ス是レ砲彈爆彈等ノ損害ヲ力メテ減少センガ爲ナリ  
 索引車其ノ他自動車亦捲揚ヲ煩リ頭ヲ突込マシメテ力メテ損害ヲ減ケタ  
 リ對空個人用銃器ハ線カラズ捲カラズ而モ下方ノ半徑ヲ若干大ナラシム  
 ルヲ可トス然レドモ往ルニシテ過度ニ大キニシテメ土砂ノ爲運載セラレタ  
 ルモノアリ注意ヲ要ス

六 疎 開

敵ハ廣正西ニ在リ而シテ我ハ砂丘ノ後方ニ遮蔽スルヲ以テ自然遮蔽良好  
 ナル地域ハ制限セラレ疎開ハテ外ルモノ多シ然ラザル場合ニ於テモ我  
 ガ軍ノ疎開ハ十分ナラザルモノ多ク故テ疎開ハ一線ニ行ハレタリ  
 理上又状況ニ依リテ止ムヲ得ザルニトアルハキモ間隙ハ一般ニ撤カレ  
 メテ之ヲ疎開シ且不速ニ肥草スル如ク努力スルヲ要ニ散列ノ馬匹、直轄  
 等隊ハテ疎開ノ急急芝キハ一大徑管ヲ要スル點ナリ車輛ノ距離距離等  
 ハ地域之ヲ計ス限リ極小ノ距離ヲ維持セシムル如ク努メタリ馬匹ニ就テ  
 モ亦然リ舊陣中要務令處警隊形ヲ墨守シ密集ニ過キ砲彈又ハ投下爆彈ノ

爲不測ノ大損害ヲ蒙リシ例乏シカラズ馬匹モ各馬毎ニ疎開シ所要ノ工事ヲ實施スヘキナリ

### 十二偽裝

偽裝ハカミテ實施シアルモ尙十分ト謂ヒ難ク屢々上司ヨリ注意ヲ受クルモノアリ敵ハ戰鬪機ヲ以テ偵察ス故ニ偽裝ヲ行ハバ敵ノ發見ヲ免ルルコト容易ナルヲ以テ各部隊ハ如何ナル場合ニ於テモ偽裝ニ一層ノ努力ヲ必要トス

### 十二視測所ノ選定並ニ行動

視測所ヲ著明ノ地點ニ選定スルコトハ大ニ慎マザルベカラズ而シテ戰場ニ價レタル部隊ニ在リテハ著明ナラザル地點ニ於テ任務達成ニ適スル視測所ヲ選定シアリ即チ例ハバ砂丘ト砂丘トノ中間前方ニシテ稍々小高キ地點等ニ於テ全ク敵砲彈ヲ受ケズ而モ相當視界ヲ有スル視測所ヲ選定セルモノアリ

右ノ如キ視測所モ工事ノ施設不謹慎ナル行動等ニ依リテニ三日位過セバ

敵ヨリ發見セラレ集中射撃ヲ受クルニ至ルコトアリ通信線ハ敵ノ射撃ヲ受クルニ至レバ屢々切斷セラレ一時射撃ヲ中絶スルニ到ル地形適當ナルトキハ視號通信ニテモ可ナルコトアルモ前線ニテハ之ヲ利用シ得ザルコト多シ中隊ハ砲隊鏡一個ヲ立テテ常時一名頭ヲ匿シタル儘監視ス重要ナル時機ニハ必ず將校之ニ任ジ射撃ノ際ハ中隊長之ヲ使用ス通信手其ノ他傳令等決シテ頭ヲ出サザルコトニ注意スルヲ要ス尙聯大隊本部等ハ速カニ交通ヲ統制シ要スレバ歩哨ヲ立テテ往復者ヲ誘導シ交通ヲ制限スル等敵ニ發見セラレ又ハ徒ラニ損害ヲ蒙ラザル如クカムルヲ要ス

### 敵戰團機ノ對地攻撃

當初ニ於テハ我が砲兵陣地及段列ハ屢々襲撃ヲ受ケ馬匹等ノ損害尠ナカラザリシモ我が高射砲並ニ戰團機ノ威力ニ依リテ七月中旬以後ハ殆ンド對地攻撃ヲ行ハザルニ到レリ

### 雨給水

馬匹ニ對スル給水ニハ各部隊共ニ困難ヲ感シアリ即チ夜間糞料ノ糞  
 造水筒ニ到ルヲ要ス給水班ノ活動ハ第一線迄及ビ飲料水ニ對シ不自由  
 聲ヲ聞カザリシハ實ニ感激ニ堪ヘザリキ凹地ヲ若干掘レバ冷キ濁水ヲ得  
 ルヲ以テ多クハ此ノ水ヲ使用セルモ移動頻繁ナル部隊ニテハ之ヲ期待ス  
 ルコト困難ナリキ

### 第三節 將來ニ對スル意見

一、砲兵將校ノ射撃教育ニハ一層ノ努力ヲ必要トス

今ヤ我が砲兵中隊長級ノ不多數ハ射撃技術極度ニ低下シ往時ノ如キ戰術  
 計畫ヲ立案スルモ所望ノ效果ヲ得ザルニ至ル虞アリ上級指揮官ハ此ノ狀  
 態ニ思ヒラ致シ部下ノ識能ニ應ズル戰術指揮ニ留意スルヲ要スルト共ニ  
 且シ

中隊長ノ技術低下ヲ急速ニ向上セシムル爲ニハ年度ノ演習兵隊ヲ營分  
 ノ間毎年少クモ過去ノ二三年分宛配當シ以テ往時任官後十數年ニシテ漸  
 ク一人前ノ中隊長タリシ程度ノ練習ヲ與ヘザルベカラズ

又此等ノ教育ヲ更ニ有效ナラシムル爲有ナル教官ニ依リ集合教育ヲ行  
フヲ可トス之ガ爲他兵學校ヲ滿洲ニ進出セシメ各部隊ヨリ所長ノ幹部ヲ  
召集教育スル等ノ方法ヲ講ズルヲ可トス而シテ本教育ニ關スル目下ノ急  
務ハ射擊技術ノ向上ニ在リ華々シキ戰鬪射擊ヲ行フモ空中機雷ヲ策クニ  
似タルモノニシテ本來ヲ誤ラズ確乎タル技術ノ教育ヲ先決スベキモノト  
信ズ

二、情報部隊ノ活動ハ實ニ素暗ラシキモノニシテ之ニ比較シ觀測班等ノ活動  
ハ相當見劣リスルコトニ關シテハ深厚ナル研究ヲ要ス少クモ優越ナル砲  
兵ヲ有スル蘇軍トノ戰爭ヲ豫期スル我ガ軍ニ於テハ此ノ情報班ノ増強ニ關  
シテハ一層ノ努力ヲ要スルモノト思考ス又逐次編制セラルベキ觀測中隊  
モ亦大ニ強化シ要スレバ之ヲ大隊トシ以テ確乎タル師團砲兵少クモ二々  
大隊以上ノ火力運用ノ基礎ヲ構成セバ砲兵ノ戰力ハ一層向上シ且所要  
ノ彈藥數ヲ減少スルコトニ依リ後方機雷ノ負擔ヲ輕減シ得ベシ

三、空中機雷射擊ハ東方正面ニ於テハ極度ニ其ノ必要ヲ生スベキハ火ヲ放ル



ヨリモ明カナリ故ニ速カニ他兵偵察將校ヲ養成シ又直ニ飛行ハ訓練  
隊ヲ増強シ本事件ノ敎訓ニ鑑ミ敎育訓練ノ方法ヲ實戰的ナラシメ射撃部  
隊ノ敎育ヲ徹底セシムルヲ要ス

無線電話ハ益々發達セシムルヲ要ス

航空兵科ノ一部トシテモ猶砲兵任務飛行機及偵察將校ノ敎育ヲ實施スル  
能ハストセバ斷乎、砲兵自力ヲ以テ之ガ敎育訓練ニ任ゼザルベカラズ

四 彈道辯ノ決定ノ必要ハ論ズル迄モナシ各部隊ハ目下ノトコロ演習用彈藥  
ノ一部ヲ割キ勞メテ之ガ決定ヲ行ヒアルモ將校ノ伎倆向上ノ爲ニハ目下  
斯クノ如キ餘裕ヲ有セズ故ニ中央部ニ於テ之ガ爲彈藥ノ特別支給ヲ要ス  
ルモノト認ム

現地ノ狀況ヲ見ルニ射撃ノ結果剩餘修正量ヲ求メ或ハ砲車各個ノ修正結  
果ヲ利用シテ關係彈道辯決定又ハ修正ノ資料トスルノ著意稍乏シキヲ  
感ズ故ニ各部隊ニ於ケル彈道辯決定ハ驗速ノ方法ヨリモ火砲比較射撃ヲ  
採用シ其ノ概念ヲ若キ中隊長ニ植付クルノ必要アリト思考ス

五野砲級ノ射程外ノ對砲兵戰ニハ十五加ヨリモ十加ヲ適當トス其ノ理由三ノ如シ

1. 發射速度大

空觀射擊ニハ特ニ必要ニシテ十五加ハ稍々不適當ナリ

2. 精度大差ナシ

3. 射距離大差ナシ

4. 射向變換容易

5. 一彈ノ效力ハ命中セハ相當ノ打撃ヲ與フ命中セザルモノハ六差アシ

6. 教育訓練容易

7. 經費少シ

8. 陣地變換容易

六二門編制ノ十五加中隊ハ發射速度ノ關係上編成セザルヲ可トス二門ニケ中隊ヲ以テ導口四門一ケ中隊ヲ可トス

二門ニテボツン々長時間射擊スルハ精神的效果尠ク又平均點ノ移動等ニ

依り射撃困難ニシテ其ノ效果少キニアラザルヤト思考セララル

七、十加、十五榴、十五加等ノ大、中隊長特ニ目下ノ中隊長ハ砲兵將校ノ内老

練ニシテ最モ優秀ナルモノヲ選定充當スルヲ要ス

火砲ノ發數少ク經費多大ナルモノヲ要シ砲兵火力ノ骨幹ヲ爲ス此等ノ火  
砲ヲ若年ニシテ經驗少キ技能未ダ不十分ナルモノニ中隊長タラシムルハ  
負擔過重ニシテ寧ロ氣ノ毒ナリ此等ノ火砲ヲ有スル部隊ニ在リテハ自然  
演習用彈藥少キニ依リ其ノ熟達他ノ輕砲ノ如クナラザルヲ以テ特ニ十加  
十五加ノ如キ發數少キ火砲ヲ有スル部隊ニハ尙豐富ニ演習用彈藥ヲ支給  
シ代用火砲ヲ以テ一層多發回實射ヲ行フヲ要ス十加部隊ニハ至急代用火  
砲ヲ支給スルノ必要アリ

八、九二式十加ノ精度ハ良好ナルモ大架ノ抗力弱キハ不可ナリ速カニ改修ヲ  
要スルト共ニ將來火砲ノ實用試験ニ備シ願慮スルヲ要ス

0415



第二次「ノモンハン」事件ニ於ケル工兵ニ關スル教訓

昭和十四年八月  
關東軍司令部

關參政號外

工兵教訓事項送付ノ件

昭和十四年九月九日

浦東軍參謀部第一課高級參謀

有末

次

「ノモンハン」戦ニ於ケル首題ノ件爲參考別紙ノ通送付ス  
追テ岡田中佐ノ視察時機ハ八月二十日迄ナルニ付申添フ

0416

「夕モシハン」戦ニ於ケル岡田工兵中佐ノ所見要旨

一、戰場附近ノ地形（要圖第一）

哈爾哈河北岸ニ於ケル敵陣地ハ反斜面ヲ利用シアリテ我カ砲兵ノ主觀測所ヨリノ視測ハ全ク不能ナルノミナラス補助觀測所ヲ第一線ニ出スモ敵砲兵ノ制壓ヲ受ケ易ク有效ナル射擊ヲ實施スルコト困難ナル狀況ナリ

二、蘇軍砲兵ノ射擊（要圖第一）

蘇軍砲兵ノ射擊ハ比較的正確ナリ哈爾哈河北岸ニ於ケル敵陣地ヲ夜襲ニ依リ奪取スルモ敵砲兵ノ有效ナル射擊ヲ蒙リ之ヲ維持スルコト困難ナリ之ヲ滿洲事變及支那事變ニ對比シ敵ノ火力ニ雲泥ノ差アルヲ認識シテ善處スルヲ肝要トス

三、蘇軍歩戰砲ノ協同攻撃

今次戰鬪開始ノ初期ニアリテハ蘇軍戰車ハ勇敢ニ我カ陣地ニ向ヒ一撃ニ邁進シ爲ニ我カ速射砲等ノ爲多大ノ損害ヲ被レリ然レトモ爾後其ノ

用法ヲ變更シ戰車ハ概ネ我カ歩兵重火器ノ射撃ヲ開始スル距離迄前進シ我カ速射砲ノ射撃開始ヲ認ムルヤ直チニ附近ノ地形ヲ利用シ停止ス次テ砲兵ヲ以テ我カ速射砲ニ對シ猛烈ナル砲撃ヲ加ヘ以テ此ノ制壓下ニ戰車ハ前進ヲ開始スル如ク戰法ヲ改變セリ

蘇軍ハ歩戰協同(約一中隊前後)ノ夜間攻撃ヲ行フコトアリ其ノ法歩戰一體トナリ前進シ來リ有利ナル地形ヲ利用シテ戰車ハ停止シ之ヲ奪奪ノ如ク利用シ攻撃步兵ヲ支援スルノ方法ヲ探レリ

#### 四 蘇軍築城

地形地物ヲ巧ニ利用シ疎開ニ勉ム

戰鬪ノ成呆ニ徴スルニ輕易ナル工事ト雖モ遮蔽セラレアル場合ハ極メテ有效ナリ

我カ戰車隊ノ行動ニ多大ノ支障ヲ來サシメタル所謂「ピアノ」線(鋼鐵線)ノ障碍物ハ叢ニ遮蔽セラレテ認知不能ナリキ其ノ構造別紙要圖第二ノ如シ

## 五 蘇軍渡河作業

鐵舟並ニ列柱橋ヲ使用シ殊ニ列柱ヲ使用セルモノハ別紙要圖第三ノ如ク橋床ヲ水面下ニ構成シ以テ地上視察ニ對シ秘匿ヲ構セルモノアリ橋梁位置ノ選定ハ別紙要圖第一ノ如ク我眼及彈ニ對シ遮蔽ヲ考慮シ其ノ成果良好ナリ然モ我ニ發見セラレタリト認ムルヤ鐵舟ヲ使用セルモノハ屢々其ノ轉位ヲ行ヒ以テ避害ニ勉メ又補修材料ノ整備良好ニシテ被害ヲ受ケタル場合ノ修理迅速ナリト橋梁ノ抗力ハ戰車ヲ通スル程度ナリ

## 六 蘇軍工兵ノ能力

蘇軍工兵ハ傳統的ニ技術的ニ優秀ニシテ對ソ聯シオン戰ニ於テ又セバ又トポール政府戰ニ於テ露軍ノ戰捷ノ原因ハ其ノ工兵ニ依リテ作爲セラレタリト認メラル皇軍工兵ハ須ラク研究努力以テ少クモ蘇軍工兵ヲ凌駕スルニ努ムルヲ要ス

## 七 廣漠地ニ於ケル陣地編成

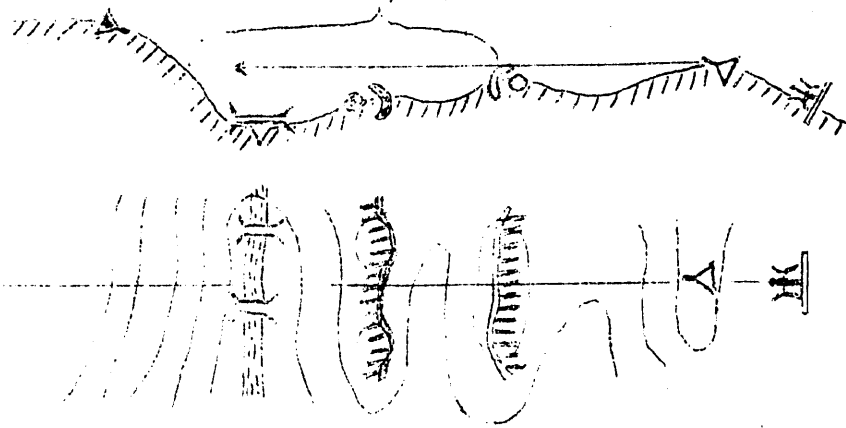


國軍ノ築城ハ一般ニ集團的ニシテ且偽裝ニ缺ケ敵ノ認識ヲ受ケ易シ其ノ編成ニ關シテハ地形ニ應ジ貫ニ創意工夫ヲ要セン  
四面迂回可能ナル廣漠地ニアリテハ別紙要圖第四ノ如ク構成スルヲ有利ト認メラル

第一圖

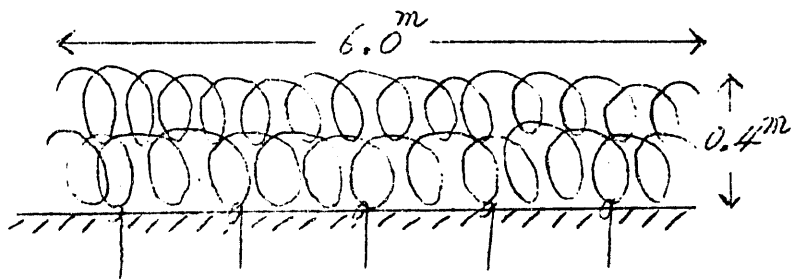
地形

ス 察 得  
ムヨリ 視



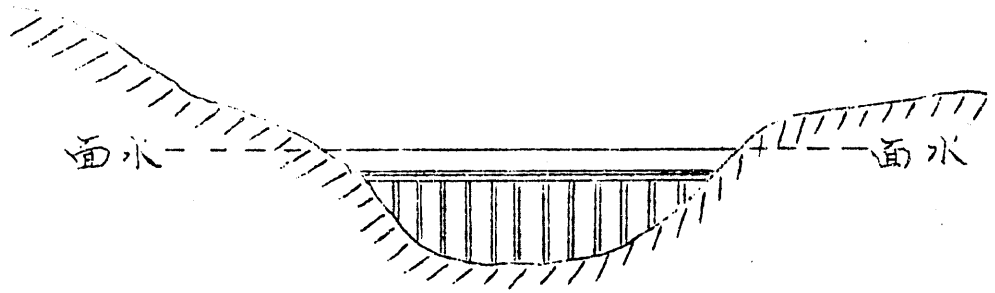
第二圖

移動性アリ、後覆通過ハ容易ナルモ  
 障礙物前十米位ニ近接スル迄ハ發見  
 困難ナル爲放力ヲ提ス



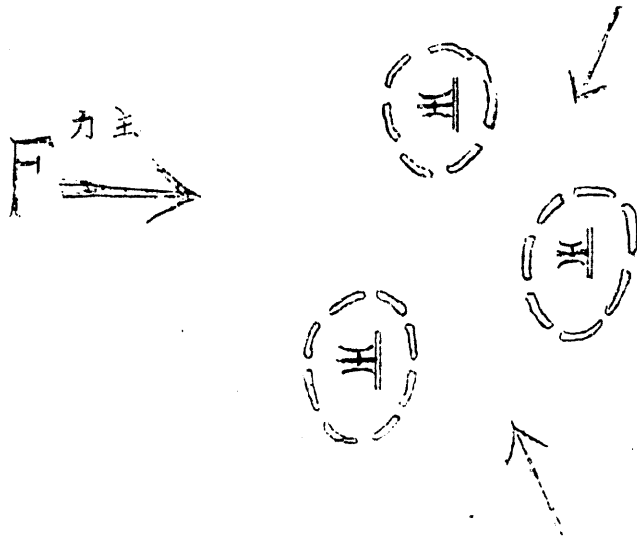
第三圖

水中橋



第四圖

廣漠地陣地編成



編成要領

敵ノ包圍ニ對シ得ルラ主眼トシ  
 歩砲一體トセル稼歟ヲ構成シ  
 相互支援セシム